構造特記仕様書

◉ は適用項目を示すものとする。

1．建築物の構造内容

（1）工事名称　まるごと西郷館改築工事
　　建築場所　福島県西白河郡西郷村大字熊倉字折口原 地内

（2）工事種別　□ 新築　□ 増築　□ 増改築　◉ 改築

（3）構造種別
◉ 木造（W）　□ 鉄骨造（S）　□ 補強コンクリートブロック造（CB）
□ 鉄筋コンクリート造（RC）　□ 壁式鉄筋コンクリート造（WRC）
□ 鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC）　□ 壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造（WPRC）
□ プレキャスト鉄筋コンクリート造（PRC）
□

（4）階 数
地下　階　　地上　1 階　　搭屋　階

（5）主要用途　物販店舗

（6）屋上付属物
□ 高架水槽　kN　□ キュービクル　kN　□ 広告塔　□ 煙突

（7）特別な荷重
□ エレベータ　人乗（ロープ式 油圧式）　□ リフト　kN　□ ホイスト　kN
□ 倉庫積載床用　N/m²　□ 受水槽　kN

（8）付帯工事
□ 門塀　□ 擁壁　□　□

（9）増築計画　□ 有（　）　◉ 無

（10）構造計算ルート　X方向ルート　-（ 1 ）　Y方向ルート　-（ 1 ）

2．使用構造材料

（1）コンクリート

適用箇所	種類	設計基準強度 Fc=N/mm²	品質管理強度 Fq=N/mm²	スランプ cm	備考
捨コンクリート	◉普通	18	18	15	
土間コンクリート	◉普通	21	24	18	
基礎、基礎梁	◉普通	21	24	18	
柱、梁、床、壁	□普通 □軽量				比重
	□普通 □軽量				比重
押えコンクリート	□普通 □軽量				比重
混和剤					

（2）コンクリートブロック（CB）
□ A種　□ B種　□ C種
厚さ
□ 100　□ 120　□ 150　□ 190

（3）鉄筋

	種類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋	◉ SD295	D10～D16	基礎	◉ 重ね継手
	□			
	□ SD345	D19～		□ ガス圧接継手
	□			
高強度せん断補強筋	□			□ 特殊継手
丸鋼	□ SR235			（　）
溶接金網（JIS G 3551）	□			

（4）鉄骨

種類	使用箇所	現場溶接	備考
□ SS400　□ SM400　□ SN400A.B.C.		□ 有　□ 無	
□ STKR400　□ STKR490　□		□ 有　□ 無	
□ BCR295　□ BCP235　□		□ 有　□ 無	
□ SM490A　□ SM490B.C.		□ 有　□ 無	
□ SSC400　□		□ 有　□ 無	

※使用箇所の詳細については別途図示とする。

（5）ボルト
□ 高力ボルト
□ 普通：F10T
□ 特殊：S10T　認定品（□ M12 □ M16 □ M20 □ M22 □ M24 ）
高力ボルトすべり係数試験　□ 要　□ 否
高力ボルト導入張力確認試験　□ 要　□ 否
◉ 中ボルト
M12　M16
◉ アンカーボルト
◉ Zマーク　M12　L＝400,450mm　ナット（◉シングル　◉ダブル）
□　M　L＝　mm　ナット（□シングル　□ダブル）
□ 頭付スタッド
φ＝　L＝　mm　使用箇所（□柱　大梁　小梁）
使用箇所（□柱　大梁　小梁）

（6）屋根、床、壁
□ ＡＬＣ板　厚
□ 折版　Ｈ＝　厚
□ デッキプレート　形式　厚
□ キーストンプレート　形式　厚
□ 特殊デッキプレート
□

3．地 盤

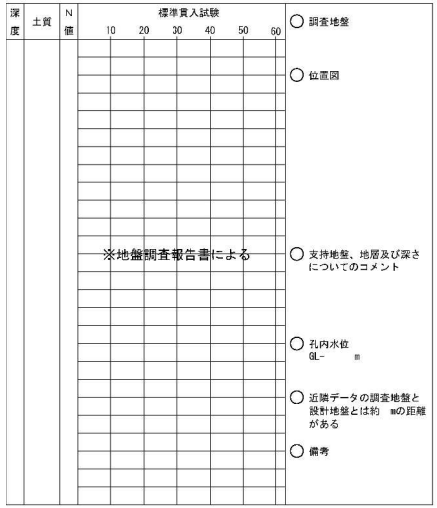
（1）地盤調査と地盤調査計画
地盤調査報告書　◉ 有　（ ◉ 敷地内　□ 近隣）　□ 無　（調査計画　□ 有　□ 無）

調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング調査	◉	□	試験掘（支持層の確認）	□	□
静的貫入試験	□	□	平板載荷試験	□	□
標準貫入試験	□	□	液状化判定	□	□
水平地盤反力係数測定	□	□	スクリューウエイト貫入試験	□	□
土質試験	◉	□	現場透水試験	□	□
物理探査	□	□	PS検層	□	□

※上記表中の資料が有るもの、調査計画が有るものに ◉ を記入する。

（2）地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合がある

（3）ボーリング標準貫入値、土質構成（基礎・杭の位置を明記すること）



4．地業工事

（1）直接基礎
□ ベタ基礎　◉ 布基礎　□ 独立基礎　試験掘（□有 □無）
深さGL　-0.45 m　支持層　礫質土層
長期許容支持力度　40　kN/m²　載荷試験（□有 □無）

（2）基礎杭一支持層

杭種	材料	施工法	備考
□ RC　□ PC □ PHC　□ H鋼 □ 鋼管　□ 摩擦杭 □　□	PC　□A種□B種□C種） PHC　□A種□B種□C種） 鋼材　□SS400　□STK400	□ 打ち込み □ 埋込み（セメントミルク工法） □ □	大臣認定番号 年 月 日
□場所打ち コンクリート杭	コンクリートFc=　N/mm² スランプ　cm セメント量　kN/m² 鉄筋　主筋 SD HOOP SD	□オールケーシング□拡底杭 □リバースサーキュレーション □アースドリル　□ミニアース □ＢＨ　□深礎（□手堀 □機械掘）	指定番号 日本建築センター認定 年 月 日

杭仕様　□ 施工計画書承認　□ 杭施工結果報告書
試験杭　（□ 有　□ 無）　（□ 打ち込み　□ 載荷）　本

杭径(mm)	設計支持力(kN)	杭の先端の深さ(m)	本数	特記事項

5．鉄筋コンクリート工事

（1） コンクリート

◉ コンクリートは JIS 認定工場の製品とし施工に関しては JASS5による。
◉ 耐久設計基準強度 Fd　□ 短期　◉ 標準　□ 長期
◉ セメントは、 JIS R 5210 の普通ポルトランドセメントを標準とする。
◉ 調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
◉ 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
◉ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（一財）国土技術研究センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を1回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し承認を得る。
測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
構造体コンクリートについて、現場の圧縮強度試験供試体（JASS5T-603）は、標準水中養生もしくは、現場水中養生、現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごととする。
また、打ち込み量が150m³ を超える場合は150m³ ごとまたは、その端数ごとに1回を標準とする。1回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4週用に3本を用いる。
◉ ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。
なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が 25℃未満の場合は 150分、 25℃以上の場合は 120分以内とする。

（2） 鉄 筋

◉ 鉄筋は、 JIS G 3112 の規格品を標準とする。施工は JASS5 による。
□ 高強度せん断補強筋は、 JIS G 3137 に規定されるD種1号適合品とする。
◉ 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 」による。
◉ D19未満は、すべて重ね継手とする。（D19以上をガス圧接とする場合は、日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書　ガス圧接継手工事」による。）
ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと（200箇所を超えるときは、200箇所ごと）に1回行い、1回試験は5本以上とする。
外観検査（◉ 有 □ 無）　引張試験（□ 有 ◉ 無）　超音波探傷試験（◉ 有 □ 無）
□ 柱の帯筋（ＨＯＯＰ）の加工方法は、　□ Ｈ型（タガ型）　□ Ｗ型（溶接型）
□ Ｓ型（スパイラル型）とする。
□ コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第4条の試験機関で行うこと。
試験機関名
代行業者名
※代行業者名とは、試験、検査に伴う業務を代行する者をいう。

（3） 型 枠

◉ 材料　合板厚 12mmを標準とする。
◉ 施工は JASS5 による。
◉ 型枠存置期間は下記表による。

種類	せき板				支柱		
部位	基礎、梁側、柱、壁		スラブ下、はり下		スラブ下	はり下	
セメントの種類 / 存置期間中の平均気温	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種
コンクリートの圧縮強度 15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
コンクリートの圧縮強度 5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	28
コンクリートの圧縮強度 5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度	5N/mm²		設計基準強度の50%		設計基準強度の		
					85%		100%

※片持ばり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。
※大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。
※支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
※盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材またはこれに代わるものを置く。
※支柱の盛りかえは、ハばりが終わってから、スラブを行う。
※一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
※上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

6．鉄骨工事

（1）鉄骨工場は指示のない限り下記による
□ 日本建築学会「 JASS6 」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
□ 鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」

（2）工事管理者の承認を必要とするもの
□ 制作工場　□ 製作要領書　□ 工作図　□ 施工計画書
□ 認定表入は登録工場（　グレード　都登録　ランク）
□ 材料規格証明書または試験成績書
□ 鋼材　□ 高力ボルト □ 特殊ボルト □ 頭付スタッド
□ 社内検査表

（3）工事監理者が行う検査項目
□ （ 印以外の項目の検査結果については、工事管理者に報告すること）
□ 現寸検査　□ 組立　開先検査　□ 製品検査
□ 運方検査　□　□

（4）接合部の溶接は下記によること
□ 東京都アーク溶接工事管理基準（建築構造設計指針第 12 章）
□ 鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱（建築構造設計指針第 12 章）
□ 日本建築学会「溶接工作基準、同解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ」
□ 日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」

（5）接合部の検査
□ 溶接部の検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数 社内	検査率又は検査数 第三者	検査率又は検査数 工事管理者	備考
□ 突合せ溶接部	超音波探傷試験	% 個	% 個	% 個	
□	外観（目視）検査	%	%	%	
□	マクロ試験・その他	個	個	個	
第三者検査機関名					
第三者検査機関とは、建築主、工事管理者又は工事施工者が、受入検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。					

※現場溶接部については原則として第三者による全数検査を行うこと。
※現場溶接部は、超音波探傷試験を100%行う事。

（6）防錆塗装
□ 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは一次、二次締めとする。
締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行われているか検査する。
□ 高力ボルトは「 JIS B 1186 の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態をみること。ただし、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面あらさが 50S 以上である場合は、赤さびは発生しないまでよい。

（6） 防錆塗装
□ 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序の部分とする。錆止めペイントは、 JIS K 5621 、2回塗りを標準とする。
□ 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調査は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。

（7） 耐火被覆の材料
□

7．設備関係

◉ 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。設ける場合は設計者の承認を得ること。
◉ 設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
◉ 床スラブ内に設備配管等を埋め込む場合はスラブ厚さの 1/3 以下とし、管の間隔は管径の 3 倍以上かつ 50mm 以上を原則とする。

8．その他

◉ 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
◉ 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い、工事監理者に報告すること。
◉ 必要に応じて記録写真を撮り保管すること。
◉ 設計図書に記載なきものは下記の図書に準拠する。（※全て最新版による。）
「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」　（国土交通大臣官房官庁営繕部監修）

株式会社 斎藤建築設計事務所・・ 一級建築士事務所登録 第13（101）0002号
白河市愛宕町25番地　TEL 0248（23）2724 管理建築士　一級建築士登録　第217145号　斎藤正明

承認	CHECK	DRAW	DATE	NO
			R08.10	S－101

A1=100%　A3=50%縮小

木質工事特記仕様書（2024年版）

1．一般事項　　◉は適用項目を示すものとする。

（1）適用範囲
本仕様書は建築物及び工作物の構造上主要な部分に木材・木質材料を用いる工事に適用する。
木造の構法は、建築基準法施行令第3章3節に規定する木造軸組工法に適用する。

（2）設計図書
設計図書とは標準図、特記仕様書、設計図、指示書（現場説明書及び質疑回答書を含む）をいう。

（3）準拠する図書
設計図書に記載なきものは下記の図書に準拠する。（※全て最新版による。）
「木造住宅工事仕様書」（ 住宅金融支援機構監修 ）
「木造計画・設計基準」（ 国土交通大臣官房官庁営繕部監修 ）
「木造軸組工法住宅の許容応力度設計」（ 日本住宅・木材技術センター ）
「日本工業規格　JIS A3301-2015 木造校舎の構造設計標準」
「木質構造設計規準・同解説」
「公共建築木造工事標準仕様書」（ 国土交通大臣官房官庁営繕部監修）
　上記の仕様書に記載無き場合は、公共規格又はこれに準ずる規格を適用する。

（4）設計図書の優先順位
設計図書の優先順位は下記による。
1. 質疑回答書　2. 現場説明書　3. 特記仕様書　4. 設計図　5. 標準仕様書

（5）設計図の表現
設計図上”化粧”とある表記は、ブレーナー仕上げ若しくはサンダー掛け程度を示す。

（6）疑義
疑義を生じた場合は監理者に申し出、その処理方法について協議する。

（7）製作要領書及び施工計画書の作成・提出
◉　工事に先立ち、製作要領書や施工計画書を作成し、監理者の承認を受ける。

（8）施工図及びプレカット図の提出
工事に先立ち施工図を作成し監理者の承諾を受ける。
プレカット工場を使用する場合には、プレカット図を施工図と位置づける。

（9）製作工場・プレカット工場の選定
設計図書に基づき、当該工事の規模、加工内容に応じた技術と設備を備え、かつ自主管理能力を有した製作工場、プレカット工場を選定する。

（10）各種試験・検査報告書の提出
施工者は、各種工事の試験・検査結果ならびに施工記録を提出する。

2．材料の品質　　◉は適用項目を示すものとする。

2.1 木質材料

（1）構造用集成材、構造用単板積層材（LVL）
本項の内容は特記無き限り、集成材及び単板積層材の日本農林規格に準拠する。

◉ 【構造用集成材・ LVL 】
ラミナの改数や特殊な試験については必要に応じて特記する。

部　位	樹種名	品　名 （ LVLの場合は区分）	強度等級 （LVLの場合は曲げ性能）	材面の品質	使用環境	ホルムアルデヒド 放　散　量
柱、梁、胴かい	唐松	対称異等級	E95-F270	2種	A	F☆☆☆☆
梁	唐松	対称異等級	E95-F270	2種	A	F☆☆☆☆

（2）構造用製材
本項の内容は特記無き限り、構造用製材を対象とし、製材の日本農林規格に準拠する。

◉ 【構造用製材】

部　位	樹種名	強度等級	乾燥処理	保存処理	材面の美観
土台・大引き	桧	E70以上又は甲種1級以上	SD20	薬剤注入	
柱、梁、胴かい	唐松	E95-F270	SD20	指定なし	
梁	唐松	E95 F270	SD20	指定なし	
垂木・間柱	杉	JAS2級以上	SD20	指定なし	

□ 主要構造部には機械等級区分製材を用いることを原則とする。
　背割りを行う部材の有無
　□ 有　（背割りを行う場合は、見えがかり部・相欠き部材・構造用合板の釘接合面には行わない。）
　◉ 無
◉ 強度等級を指定した材料は特に、材料の欠点の節、目切れ等に注意して材料を選定し、仕口や接合部に欠点が当たらないように注意する。
□ 材の曲がりについては、上記にかかわらず目視等級１級相当とする。

（3）構造用合板、構造用パネル（OSB）、パーティクルボード、 MDF 等
本項の内容は特記無き限り、合板及び構造用パネルの日本農林規格又はパーティクルボード、及び MDF 等の日本工業規格に準拠する。

◉ 【構造用合板・構造用パネル（OSB）、パーティクルボード、MDF 等】
単板の樹種及び構成や防虫処理については必要に応じて特記する。

部　位	強度等級 （OSBの場合は曲げ性能）	板面の品質 （注1）	接着の程度 （構造用合板の場合に記入）	寸　法	ホルムアルデヒド 放　散　量
根	2級	C-D	特記	9mm	F☆☆☆☆
屋根	2級	C-D	特記	12mm	F☆☆☆☆

※1.構造用合板の板面の品質は、通常は１級が B-C 、２級が C-D
　OSB の場合は、表面及び裏面に木材の小片の浮き上がりがないこと及び側面の切断面が平滑であること。
※2.特注品の場合は納期に注意すること　（2ヶ月以上 ）

（4）丸太、そま角
本項の内容は特記無き限り、表材の日本農林規格などに準拠する。

□ 【丸太、そま角】

部　位	樹種名	縦振動ヤング係数区分	等　級

2.2 接合具
接合具の材質は一般普及品を使用することを原則とし、特殊なものを使用したい場合は特記とする。
接合具に錆を生じる恐れのある場合は適切な防錆処理を施す。鋼材の表面処理は特記による。
標準のつき処理は溶融亜鉛めっき銅板：Z27（JIS G 3302）電気亜鉛めっき：Ep-Fe/Zn8/CM2 とする。

（1）くぎ、木ネジ

種　類	材　質		使用箇所	頭部／胴部形状
◉ ＣＮ釘	鉄	JIS G 3532	SWM-N	補強金物類	平頭フラット/パーブ
◉ ＣＮ釘	鉄	JIS G 3532	SWM-N	壁、床、屋根合板	平頭フラット
□					

（2）木質構造用ビス

製品名	使用箇所
◉ タルキックⅡ	垂木
□ パネリードS	
□	

（3）ボルト、ナット、座金
ボルト・ナットは JIS B 1180、 JIS B 1181 の規格及び付属書 JA による。

種　類		材　質		径（mm）	防錆処理、使用箇所など
◉ six角ボルト □ 有効径六角ボルト	鉄	JIS B 1180 JIS B 1181 JIS B 1051	強度区分4.6又は4.8,4T以上に適合する炭素鋼	12	◉ 電気亜鉛めっき □（　　）
□ 全ネジボルト □	ステンレス	JIS G 4303	SUS304		生地
◉ アンカーボルト □	鉄	JIS G 3101 JIS G 3136 JIS G 3505 JIS G 3507-1	SS400 SMR400B、490B SWRM8～10 SWRCH8～10	12, 16	◉ 電気亜鉛めっき □（　　）
	ステンレス	JIS G 4303	SUS304		生地
□ 角座金 ◉ 丸座金 □	鉄	JIS G 3131	SPHC SS400	12	◉ 電気亜鉛めっき □（　　）
	ステンレス	JIS G 4303	SUS304		生地

※設計図及び標準図記載以外の座金は、特記なき限り用途ごと （ 引張、せん断 ）に下表により使い分ける。
同、ボルトとの組み合わせにより耐力が決まっている羽子板ボルト等の座金は、その仕様に準ずる。（単位：mm）

座金の大きさ ＼ ボルト径		8	10	12	16	20	24
引張を受けるボルト	厚さ	4.5	4.5	6	9	9	13
	角座金の一辺	40	50	60	80	105	125
	丸座金の直径	45	60	70	90	120	140
せん断を受ける座金	厚さ	3.2	3.2	3.2	4.5	6	6
	角座金の一辺	25	30	35	50	65	70
	丸座金の直径	30	35	40	60	70	80

（4）ドリフトピン、ラグスクリュー、木栓

種　類	材　質			径(mm)	長さ(mm)	防錆処理、使用箇所など
◉ ドリフトピン	鉄	JIS G 3101 JIS G 3505 JIS 4051	SS400 SWRM8～12 S10C	設計図書による		◉ 溶融亜鉛めっき ◉ 電気亜鉛めっき
◉ ラグスクリュー （コーチボルト）	鉄	JIS B 1180 JIS B 1051 JIS G 3101	強度区分4.6又は4.8 SS400	設計図書による		◉ 電気亜鉛めっき □（　　）
□ 木栓	堅木（樹種：　　）					

※ドリフトピンの先端テーパー部の長さ： 10mm 以下
※木栓はナラ・ケヤキ・カシ等、気乾比重0.6以上の広葉樹で、節や目切れ等の欠点の無いものとし先端は、3～5mm程度面取りすること。

（5）接合金物、鋼材

種　類	品　名	メーカー等	防錆処理、使用箇所など
□ 筋かい耐力壁の接合部			□溶融亜鉛めっき □電気亜鉛めっき
			□溶融亜鉛めっき □電気亜鉛めっき
◉ 柱頭・柱脚接合部（小型接合金物）	B120	Sマーク表示金物	◉溶融亜鉛めっき
	S8-O	Sマーク表示金物	◉溶融亜鉛めっき
	SPT-10		◉溶融亜鉛めっき
	M120	Sマーク表示金物	◉溶融亜鉛めっき
◉ 横架材接合部（小型接合金物）	J-18	Sマーク表示金物	◉溶融亜鉛めっき
	J-24	Sマーク表示金物	◉溶融亜鉛めっき
	J-36	Sマーク表示金物	◉溶融亜鉛めっき
◉ 接合部（製作金物）	設計図による		◉溶融亜鉛めっき ◉塩止め塗装

※Sマーク表示金物はＫＥＳコネクター又は同等以上銘力を有するものとする。
※Sマーク表示金物は製定工場（（公財）日本住宅・木材技術センター 性能製定金物）により製作。
　管理されたものとし、品質基準は同製定内容に準ずる。
※製作金物は設計図に示す。

・ボルト類

BT M	ボルト
LS M	ラグスクリュー
LSB M	ラグスクリューボルト
DP φ	ドリフトピン
A.bolt M	アンカーボルト
HTB M	ハイテンションボルト

・鎖板類

PL	鋼板
B.PL	ベースプレート
G.PL	ガセットプレート
R.PL	リブプレート
FB	フラットバー

（6）接着剤（接着接合）
ここでいう接着接合とは、建設現場で用いるものを対象とする。

製品名	使用箇所	備　考
□		
□		
□		

3．耐久性（防腐・防蟻・耐候処理）　　◉は適用項目を示すものとする。

（1）木材の防腐・防蟻処理
木材の防腐・防蟻処理には以下のいずれかとする。
・工場処理材（注：現場の加工、切断、穿孔箇所などは、現場処理に準じる）
　保存処理材（性能区分）：　K4　(K3)　K2
　AQ認証保存処理材　　：　1種　(2種)　3種
・現場処理：　塗布、吹付、浸漬（特記無き場合は、処理量：300ml/m2、処理回数： 2回）
（仕様薬剤に規定がない場合、処理量：300ml/m2、処理回数： 2回）
（※接合部、金属部、コンクリートなどに接する部分は、特に入念な処理を行う。
給排水用塩化ビニル管に接する部分は、薬剤による腐蝕を防ぐための管を保護する。
処理方法は、日本しろあり対策協会の標準仕様書に準じる。）

使用薬剤：公共建築工事標準仕様書（建築工事編）

使用部位	面製久材	工場処理材	現場処理
土台・大引き	□（心材またはAQ2種）	◉（K3またはAQ2種）	□　塗布
外周柱下部 1m	□（　　）	□（　　）	◉（　塗布　）
外周盛かい下部 1m	□（　　）	□（　　）	◉（　塗布　）
外周木質系面材耐力壁下部 1m	□（　　）	□（　　）	◉（　塗布　）
水回り	□（　　）	□（　　）	◉（　塗布　）
その他	□（　　）	□（　　）	□（　　）

（2）土壌処理
□ 防蟻薬剤による処理：薬剤（　　）
　特記無き場合は、日本しろあり対策協会または日本木材保存協会認定品、
　あるいはこれと同等以上の効力を有するものとする。
◉ 防蟻薬剤による処理と同等以上の対策　（　布基礎(土間一体型)　）
□ 土壌処理省略　□ 北海道　□ 東北　□ 北陸　□（　　）
　※処理範囲は、外周部布基礎の内側、内部布基礎の周辺20cm、束石等の周囲20cmを標準とし、
　処理方法は日本しろあり対策協会の標準仕様書に準じる。）

（3）耐候処理（塗装）：劣悪環境に置かれる木材等を対象とする。

部位	製品名（会社名）	塗り回数

4．材料品質の検査方法　　◉は適用項目を示すものとする。

（1）構造用集成材、構造用単板積層材　（LVL）
・搬入された製品について下記の項目の受け入れ検査を実施し、特記仕様書等で指定された所定の製品であることを、日本農林規格（JAS）の表示ラベル、または 納品書で確認すること。

（2）構造用製材
現場または加工工場に搬入された製材等は、加工に先立ち下記の項目で受け入れ検査を実施し、記録を残す。また施工者の立会いを要する検査については、指定された検査要領に基づいて、適時抜取り検査を実施する。
検査の結果、性能を満たさない材料については適用箇所を変更する等の措置を行う。

検査項目

◉ 含水率測定	◉ 抜き取り（部位：柱、梁、土台、大引）	□ 全数
◉ 材種・等級の確認	◉ 抜き取り（部位：柱、梁、土台、大引）	□ 全数
◉ 外観検査	◉ 抜き取り（部位：柱、梁、土台、大引）	□ 全数
◉ 寸法検査	◉ 抜き取り（部位：柱、梁、土台、大引）	□ 全数

・材種・等級は表示を確認し、外観・寸法検査は日本農林規格に準じて行う。
・含水率やヤング係数に表示ラベル、刻印された表示で確認し、化粧材は納品書で確認する。
・特記無き場合は、含水率計による測定は、製材受け入れ時に行う。
・無等級材を使用する場合は、全数の10%に対して、含水率、目視による材の欠点等を確認し報告書を作成する

（3）構造用合板、構造用パネル等
・搬入される製品について特記仕様書等で指定された所定の製品であることを、印字にて確認すること。

（4）接合具
・現場または加工工場に搬入される接合具について抜き取りでの受け入れ検査を実施し、材質、径、長さ製品名等について特記仕様書等で指定された所定の製品であることを確認すること。
・同等性能の接合具を用いる場合には、その主旨を監理者に申し出、承諾を得る。

（5）接合金物
・現場または加工工場に搬入される製作金物について受け入れ検査を実施し、形状、製品名等について特記仕様書等・詳細図で指定された製品であることを確認すること。
・同等認定品や性能評価品等を用いる場合には、その主旨を監理者に申し出、承諾を得る。

5．木材の加工　　◉は適用項目を示すものとする。

（1）加工寸法の精度
図面表示は仕上がり寸法である。
下記を除き、 2. Ⅰ 本質材料に示す材の仕上げ後の断面寸法の許容差は各々の農林規格の寸法許容差に準ずる。ただし、上限値が制限なとなっている場合は、協議による。

構造用製材、構造用集成材、 LVL の材長
◉ 軸組み工法の雌ぎ手仕口及び金物工法の場合：小中断面：±1.0mm、大断面：±2.0mm以下

せん断用ボルト穴径（dはボルト径）
　集成材　：　d+1.0mm （d≦ M12 ）、d+2.0mm（d≧ M16）
　接合金物等：　d+1.0mm （d＜ M12 ）、d+1.5mm（d≧ M12）
ドリフトピンの接合金物等の穴径：d+1.0mm（d≦ M12）、d+1.5mm（d≧ M16）
（dはドリフトピン径）

（2）刻み時の注意
製材に背割りのある場合、曲げ材は断面の弱軸と背割りの方向を一致させる。

（3）表面仕上げ
□ 製材　（ □ ブレーナー仕上げ　□ サンダー仕上げ　□ 超仕上げ ）
□ 集成材・LVL（ □ ブレーナー仕上げ　□ サンダー仕上げ ）
□ その他　（　　）

（4）面取り
通常の面取りは、「木造標準図（1）」4．化粧材の面取り加工を参照する。
※耐火部材の面取りは、大臣認定書を参照する。

（5）加工状況の検査
□ 立ち会い検査
　□ 外観検査　□ 加工寸法検査
◉ 自主検査記録の提出

6．運搬・建方　　◉は適用項目を示すものとする。

（1）輸送計画
製品の輸送に当たっては、建方計画に支障がないように、道路状況、現場作業手順等を考慮し十分な検討を行う。また、輸送時に製品の品質を損なわないようにする。

（2）集積・保管
集積の際は適当な受け台などを設け、材にねじれや曲がりの損傷を与えないように注意する。降雪や降雨に対する保護としてシート養生を行う。ただし、エアコンの効いた室内は乾燥による割れが発生するため避ける。

（3）建方計画
◉ 建方計画書の提出
アンカーボルトの施工方法、建方スペース、建方機械、搬入・仕分け、地組み、足場計画、建方、養生、安全対策などについて検討し、建方計画書としてまとめる。

（4）施工時の安全性
建方作業中および作業後、横架材上に諸材料または機械などの重量物を積載する場合、あるいは柱に大きな引張力を与えるなどの場合は監理者の承認を受ける。また、強風などによる諸外力に対しては、必要に応じて仮設補強等の処置を施す。

（5）アンカーボルトの施工
・芯出しは、型板を用いて基準墨に正しく合せて適切な機器等で正確に行う。
・アンカーボルトは鉄筋等を用いて組立て、適切な補助材で固定しコンクリートの打ち込みを行う。
・アンカーボルトはダブルナットとする。
　◉ 適用除外　〔 土台用アンカーボルトの場合 〕
・土台の穴あけはコンクリート打設後、ボルトの通り芯からのずれを実測してから行う。

（6）建方精度
・建方の精度基準は下記による。
※建方精度に不具合が発生した場合は速やかに監理者に報告し対応策を協議する。
◉ 建物の倒れ　：◉ e ≦ H ／ 2500=10mm　かつ　e ≦ 50mm
　□〔　　〕
◉ 梁の水平度　：◉ e ≦ L ／ 700=5mm　かつ　e ≦ 15mm
　（節点間のレベル差）　□〔　　〕
◉ 建物のわん曲　：◉ e ≦ L ／ 2500mm　かつ　e ≦ 25mm
　□〔　　〕
◉ 柱捉え付け面の高さ及びアンカーボルトの位置
　柱捉え付け面の基準高さからの誤差：◉ ±3mm以下　□〔　　〕
　通り芯からの誤差　：◉ ±3mm以下　□〔　　〕
　階　高　：◉ -5mm ≦ΔH≦+5mm
　□〔　　〕

（7）施工状況の検査
□ アンカーボルト施工時の立会い検査
　◉ 施工者自主検査記録の提出
□ 地組み時の立会い検査
　◉ 施工者自主検査記録の提出
□ 建方時の立会い検査
　◉ 施工者自主検査記録の提出
□ 建方後の施工状況の検査
　◉ 施工者自主検査記録の提出
□ 最終確認
　工事中に発生するボルトの緩み、接合具および接合金物に影響する材の割れ、接着面のはがれ等に注意を払い、不具合が発生した場合は是正する。補強の必要がある場合は速やかに監理者に報告し対応策を協議する。
　◉ 施工者自主検査記録の提出

7．耐火性能　　◉は適用項目を示すものとする。

耐火性能	主要構造部の構造方法			
□ 45分準耐火構造 （防火地域又は準防火地域内の一戸建て等以外に限る）	国土交通省告示　第１３５８号			
	木材表面の見え掛り部分燃え_ろ（集成）	柱　35 mm	梁　35 mm	
	木材表面の見え掛り部分燃え_ろ（誘材）	柱　45 mm	梁　45 mm	
□ 1時間準耐火構造 （防火地域又は準防火地域内の一戸建て等に限る）	国土交通省告示　第１９５号			
	木材表面の見え掛り部分燃え_ろ（集成）	柱　45 mm	梁　45 mm	
	木材表面の見え掛り部分燃え_ろ（誘材）	柱　60 mm	梁　60 mm	
□ 耐火構造	国土交通省告示　第１３９９号			
	一般社団法人日本木造住宅産業協会認定仕様			
	一般社団法人日本木造耐火建築協会認定仕様			
□ 主要構造部を木造とすることができる大規模の建築物（防火地域及び準防火地域以外の区域内）	国土交通省告示　第１９０２号			
	木材表面の見え掛り部分燃え_ろ（集成）	柱　25 mm	梁　25 mm	
	木材表面の見え掛り部分燃え_ろ（誘材）	柱　30 mm	梁　30 mm	

工事名	まるごと西郷館(飲食)　工事設計図・	図面名称	木質工事特記仕様書	株式会社 斎藤建築設計事務所・・ 一級建築士事務所登録 第13（101）0002号	承認	CHECK	DRAW	DATE	NO
		縮尺	－	白河市愛宕町２５番地　TEL 0248（23）2724 管理建築士　一級建築士登録　第217145号　斎藤正明				R08.10	S-102

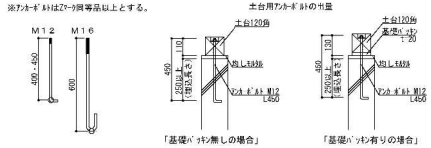
A1=100%　A3=50%縮小

木造標準図（１）

１．基礎

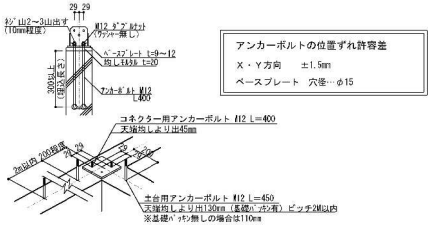
（１）アンカーボルトの設置

※ナットボルトはスクラム同等品以上とする。



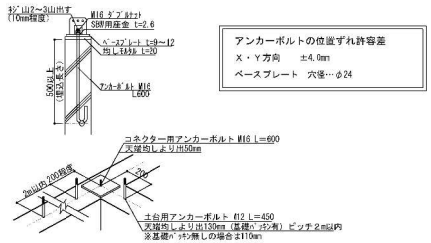
（２） Ｂコネクターの設置

① Ｂ１２０コネクター（性能認定）



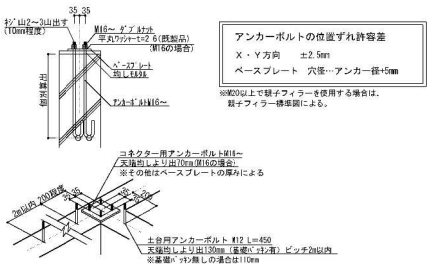
アンカーボルトの位置ずれ許容差
Ｘ・Ｙ方向　±1.5mm
ベースプレート　穴径…φ15

② ＳＢ-Ｗコネクター（性能認定）



アンカーボルトの位置ずれ許容差
Ｘ・Ｙ方向　±4.0mm
ベースプレート　穴径…φ24

③ 製作柱脚コネクター（アンカーボルトM16以上で2列配置のもの）



アンカーボルトの位置ずれ許容差
Ｘ・Ｙ方向　±2.5mm
ベースプレート　穴径…アンカー径+5mm

※M20以上で親子フィラーを使用する場合は、親子フィラー標準図による。

２．接合金物形状図

Bコネクター


B120
Sマーク表示金物


SB-W
Sマーク表示金物


SB-C
Sマーク表示金物

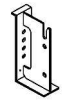
Pコネクター

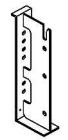

SPT-10
プレート部：SS400
パイプ部：STPG


SPT-Ⅱ
Sマーク表示金物

Jコネクター


J-18
Sマーク表示金物


J-24
Sマーク表示金物


J-36
Sマーク表示金物

Mコネクター


M120
Sマーク表示金物

その他の金物

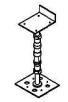

ボルト
Zマーク表示金物

六角ナット
Zマーク表示金物

バネ付き丸座金
Zマーク表示金物

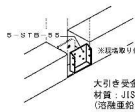
スプリングワッシャー
Zマーク表示金物


ドリフトピン
材質：JIS G 3101
(一般構造用圧延鋼材)SS400


大引受け用鋼製束



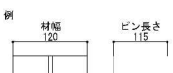
大引き受金物
材質：NSDC570



大引き受金物(柱用)
材質：JIS G 3302
(溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)
SSHCまたはSGC

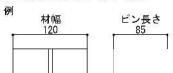
３．ドリフトピン（φ13）の長さ

（１）構造のﾄﾞﾘﾌﾄﾋﾟﾝ長さ



標準のﾄﾞﾘﾌﾄﾋﾟﾝ長さ
材幅120 ～ 139 → ﾋﾟﾝ 長さ115
材幅140 ～ 169 → ﾋﾟﾝ 長さ135
材幅170 ～ 219 → ﾋﾟﾝ 長さ165
材幅220 → ﾋﾟﾝ 長さ215

（２）化粧材に打込むﾄﾞﾘﾌﾄﾋﾟﾝ長さ



化粧材に打込むﾄﾞﾘﾌﾄﾋﾟﾝ長さ
材幅120 ～ 139 → ﾋﾟﾝ 長さ 85
材幅140 ～ 169 → ﾋﾟﾝ 長さ115
材幅170 ～ 219 → ﾋﾟﾝ 長さ135
材幅220 → ﾋﾟﾝ 長さ165

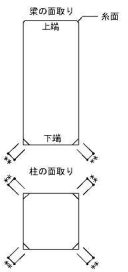
※化粧材のﾄﾞﾘﾌﾄﾋﾟﾝの打込みは、材幅に対して 1サイズ短いﾄﾞﾘﾌﾄﾋﾟﾝを使用する。
※ﾄﾞﾘﾌﾄﾋﾟﾝは材の中心まで追加で打込み、ﾋﾟﾝ穴は材の両側から埋木を取り付ける。
※埋木の取付け方法は施工マニュアル参照

４．化粧材の面取り加工

標準寸法表

		材幅 W		
		105～140	141～170	171～220
H材幅	140以下	糸面	3mm	3mm
	170以下	3mm	3mm	3mm
	220以下	3mm	3mm	3mm
	500以下	3mm	6mm	6mm
	500超	6mm	6mm	6mm

※糸面：1mm程度とする



※梁の場合は、下端２面を表の面取り幅とし、
上端２面は糸面を原則とする。
※柱・方杖等は４面とする。
※別途指定がある場合は、構造図に特記を記載する。

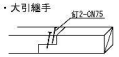
柱の丸面取りﾘﾀ表【 老人福祉施設及び幼稚園、保育園 】

		材幅 W	
		140以下	140超
H材幅	140以下	6R	6R
	140超	6R	9R

※FLより2m程度の高さとする。
※別途指定がある場合は、構造図に特記を記載する。

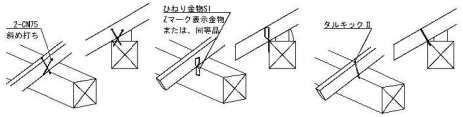
５．二次部材の納まり

（１）土台・大引継手



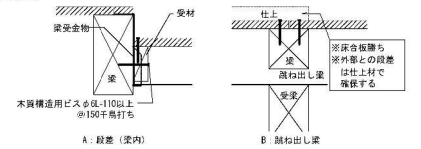
（２）垂木-母屋の接合部

※構造計算を行い下記以外の納まりとする場合は、詳細図による。



A：軒先以外　B：軒先（ひねり金物）　B：軒先（タルキックⅡ）

（３）床合板

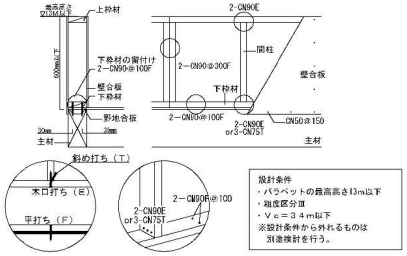


A：段差（梁内）　B：蹴込み梁

際根太の釘ピッチ



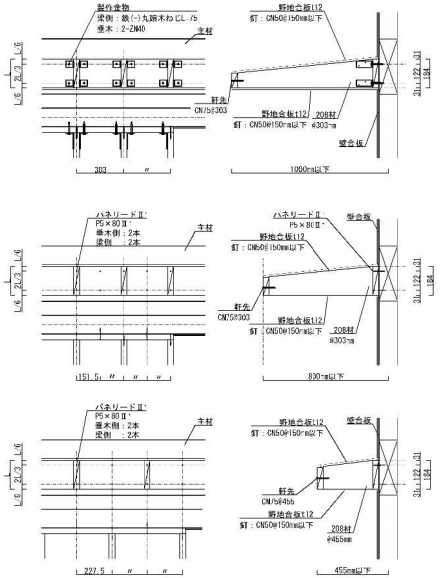
（４）パラペット



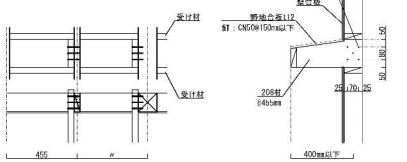
設計条件
・パラペットの最高高さ13m以下
・粗度区分Ⅲ
・Ｖ０＝３４m/s以下
※設計条件から外れるものは
別途検討を行う。

（５）付け庇

梁に取りつける場合
・庇勾配は1.0寸までとする。
・壁合板施工前に取りつける。
・垂木を格子状に組み立てた妻、主材の梁にパネリードで留め付ける。



間柱に取りつける場合
・垂木幅は38mm以上とする。
・壁合板施工前に取りつける。
・垂木の取付け、間柱に型板を添えN70釘5本を平打ちする。



工事名	まるごと西郷館(飲食)	工事設計図・	図面名称	木造標準図(1)	縮尺	－

株式会社 斎藤建築設計事務所・・ 一級建築士事務所登録 第13（101）0002号
白河市愛宕町２５番地　TEL 0248（23）2724 管理建築士　一級建築士登録　第217145号　斎藤正明

承認	CHECK	DRAW	DATE	NO
			R08.10	S-103

A1=100%　A3=50%縮小

木造標準図（２）

６．面材耐力壁

（注）（単位）mm

6.1 共通事項

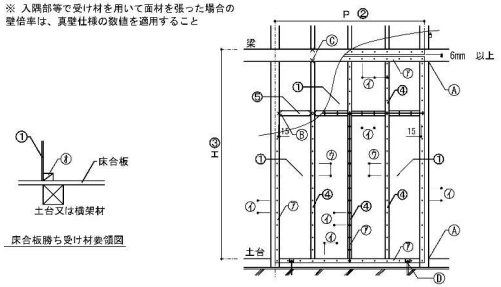
・面材張り耐力壁の面材に対する釘頭のめり込みは、面材厚の10%未満かつ1mmを限度とする。左記を超える場合は隣り合う釘との中間部に増し打ちすること。
・耐力壁の土台と基礎との間は、無収縮モルタル又は十分な耐久力を持つスペーサー材を挿入し隙間を埋めること。
・柱の有効細長比（断面の最小二次率半径に対する座屈長さの比）は、150以下とすること。

6.2 面材耐力壁の仕様

（１）昭56建告1100号に準じた耐力壁号に準じた耐力壁　　面材種類：構造用パーティクルボード、構造用MDF、構造用合板、構造用パネル（OSB）

ａ．面材張り大壁仕様耐力壁

※ 入隅部等で受け材を用いて面材を張った場合の壁倍率は、真壁仕様の数値を適用すること



ａ-1. 高倍率仕様大壁耐力壁　壁倍率：3.7

①	面材および壁倍率	構造用合板 t=9mm 以上、構造用パネル（OSB） t=9mm以上 ・・・ 3.7 倍
②	柱間隔	600mm ≦ P ≦ 2500mm
③	高さ	H ≦ 6000mm、かつ一連の耐力壁の両端柱芯間距離の5倍以下
④	間柱	幅45以上、間隔500mm以下
⑤	中桟	幅45mm以上

2）各部仕口形状及び性能

Ⓐ 各階の柱頭柱脚部	水平力時に柱頭柱脚各部へ生じる引張力を上回る耐力を有する金物を使用する
Ⓑ 中桟端部	突き付けの上、2-N75 斜め釘打ち
Ⓒ 間柱端部	突き付けの上、2-N75 斜め釘打ち
Ⓓ アンカーボルト	耐力壁のせん断力を土台から基礎へ伝えるアンカーボルト :M12以上のアンカーボルトを耐力壁両端の柱近接位置に１本ずつ設ける

3）面材の釘打ち方法　※ 構造用合板には、ＣＮ釘を用いること。

⑦	面材の釘打ち	面材の４周を釘打ちする 金物が干渉する場合は、金物を避けた位置に所定の本数を釘打ちする	
		柱及びはりに対するかかり寸法	22.5mm以上
		面材に対するへり空き	10mm以上
		柱はりのへり空き	12.5mm以上
④	面材外周部	構造用合板：CN50@75mm以下、左記以外の面材：N50@75mm以下	
⑦	中通り	構造用合板：CN50@150mm以下、左記以外の面材：N50@150mm以下	
⑤	受け材 受け材	45×60以上	
	※床合板勝ち仕様の場合 受け材と柱梁	釘 N90@120mm以下（両面張りの場合は、@60mm以下）	

ａ-2. 標準仕様大壁耐力壁　壁倍率： 2.5

①	面材および壁倍率	構造用パーティクルボード t=9mm 、構造用MDF t=9mm ・・・ 2.5 倍 構造用合板 t=9mm 以上、構造用パネル（OSB） t=9mm以上 ・・・ 2.5 倍
②③④⑤		ａ-1.（高倍率仕様）に同じ

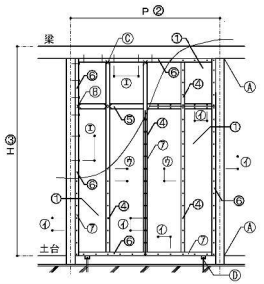
2）各部仕口形状及び性能

ⒶⒷⒸⒹ	ａ-1.（高倍率仕様）に同じ

3）面材の釘打ち方法

⑦	面材の釘打ち	ａ-1.（高倍率仕様）に同じ
④	面材外周部	N50@150 mm 以下（釘仕様の特記記載がある場合は、構造伏図の釘仕様を優先する）
⑦	中通り	N50@150 mm 以下（釘仕様の特記記載がある場合は、構造伏図の釘仕様を優先する）
⑤	受け材	受け材 ：45×60以上
	※床合板勝ち仕様の場合	受け材と柱梁： 釘 N90@200mm以下（両面張りの場合は、@100mm以下）

ｂ．受け材付き真壁仕様耐力壁



ｂ-1. 高倍率仕様真壁耐力壁　壁倍率：3.3

①	面材および壁倍率	構造用合板 t=9 mm 以上、構造用パネル（OSB）t=9mm以上 ・・・ 3.3 倍		
②	柱間隔	600mm ≦P≦2500 mm		
③	高さ	H≦6000mm、かつ一連の耐力壁の両端柱芯間距離の5倍以下		
④	間柱	幅45以上、間隔500mm以下		
⑤	中桟	幅45mm以上	⑥ 受け材	幅45mm以上

2）各部仕口形状及び性能

Ⓐ 各階の柱頭柱脚部	水平力時に柱頭柱脚各部へ生じる引張力を上回る耐力を有する金物を使用する
Ⓑ 中桟端部	突き付けの上、2-N75 斜め釘打ち
Ⓒ 間柱端部	突き付けの上、2-N75 斜め釘打ち
Ⓓ アンカーボルト	耐力壁のせん断力を土台から基礎へ伝えるアンカーボルト :M12以上のアンカーボルトを耐力壁両端の柱近接位置に１本ずつ設ける

3）面材の釘打ち方法　※ 構造用合板には、ＣＮ釘を用いること。

⑦	面材の釘打ち	面材の４周を釘打ちする 金物が干渉する場合は、金物を避けた位置に所定の本数を釘打ちする	
		受け材に対するかかり寸法	22.5mm以上
		面板に対するへり空き	10mm以上
		受け材のへり空き	12.5mm以上
④	面材外周部	構造用合板：CN50@75mm以下、左記以外の面材：N50@75mm以下	
⑦	中通り	構造用合板：CN50@150mm以下、左記以外の面材：N50@150mm以下	
⑤	受け材 受け材	45×60以上	
	受け材と柱梁	構造用合板、構造用パネル：釘N90 @200mm以下 （両面張りの場合は、@100mm以下）	

※ 床勝ち仕様の場合の受け材及び釘打ち方法はａ-1. に準ずる

ｂ-2. 標準仕様真壁耐力壁　壁倍率： 2.5

①	面材および壁倍率	構造用パーティクルボード t=9 mm 、構造用MDF t=9mm ・・・ 2.5 倍 構造用合板 t=9mm 以上、構造用パネル（OSB） t=9mm以上 ・・・ 2.5 倍
②③④⑤⑥		ｂ-1.（高倍率仕様）に同じ

2）各部仕口形状及び性能

ⒶⒷⒸⒹ	ｂ-1.（高倍率仕様）に同じ

3）面材の釘打ち方法

⑦	面材の釘打ち	ｂ-1.（高倍率仕様）に同じ
④	面材外周部	N50@150 mm 以下（釘仕様の特記記載がある場合は、構造伏図の釘仕様を優先する）
⑦	中通り	N50@150 mm 以下（釘仕様の特記記載がある場合は、構造伏図の釘仕様を優先する）
⑤	受け材	受け材 ： 45×60以上
		受け材と柱梁： 釘 N90@300mm以下 （両面張りの場合は、@150mm以下）

※床勝ち仕様の場合の受け材及び釘打ち方法は ａ-2. に準ずる

（２）倍率ごとの凡例

凡例	壁倍率	各面の仕様	面材の仕様	釘の仕様	納まり参考図
7.0	7.0倍	〈大壁側〉3.7倍	構造用合板 9.0mm 又は構造用パネル 9.0mm	外周部 CN50@75mm以下 中通り CN50@150mm以下 受材@455mm×60mm以上 N50@60mm以下	
		〈真壁側〉3.3倍	構造用合板 9.0mm 又は構造用パネル 9.0mm	外周部 CN50@75mm以下 中通り CN50@150mm以下 受材@455mm×60mm以上 N50@60mm以下	
6.6	6.6倍	〈真壁側〉3.3倍 ※両面真壁	構造用合板 9.0mm 又は構造用パネル 9.0mm	外周部 CN50@75mm以下 中通り CN50@150mm以下 受材@455mm×60mm以上 N50@60mm以下	
5.0	5.0倍	〈大壁側〉2.5倍	構造用合板 9.0mm 又は構造用パネル 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材@455mm×60mm以上 N50@100mm以下	
		〈真壁側〉2.5倍	構造用合板 9.0mm 又は構造用パネル 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材@455mm×60mm以上 N50@100mm以下	
5.0	5.0倍	〈真壁側〉2.5倍 ※両面真壁	構造用合板 9.0mm 又は構造用パネル 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材@455mm×60mm以上 N50@100mm以下	
5.0	5.0倍	〈大壁側〉2.5倍 ※両面大壁	構造用合板 9.0mm 又は構造用パネル 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材@455mm×60mm以上 N50@100mm以下	
3.4	3.4倍	〈大壁側〉2.5倍（合板）	構造用合板 9.0mm 又は構造用パネル 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材@455mm×60mm以上 N50@100mm以下	
		〈大壁側〉0.9倍（石膏ボード）	石膏ボード12.5mm	外周部・中通り GNF40またはGNC40@150mm以下 受材@455mm×60mm以上 N50@100mm以下	
3.4	3.4倍	〈真壁側〉2.5倍（合板）	構造用合板 9.0mm 又は構造用パネル 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材@455mm×60mm以上 N50@100mm以下	
		〈大壁側〉0.9倍（石膏ボード）	石膏ボード12.5mm	外周部・中通り GNF40またはGNC40@150mm以下 受材@455mm×60mm以上 N50@100mm以下	
2.5	2.5倍	〈大壁側〉2.5倍（合板）	構造用合板 9.0mm 又は構造用パネル 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材@455mm×60mm以上 N50@200mm以下	
2.5	2.5倍	〈真壁側〉2.5倍（合板）	構造用合板 9.0mm 又は構造用パネル 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材@455mm×60mm以上 N50@200mm以下	
1.8	1.8倍	〈大壁側〉0.9倍（石膏ボード）※両面大壁	石膏ボード12.5mm	外周部・中通り GNF40またはGNC40@150mm以下 受材@455mm×60mm以上 N50@100mm以下	

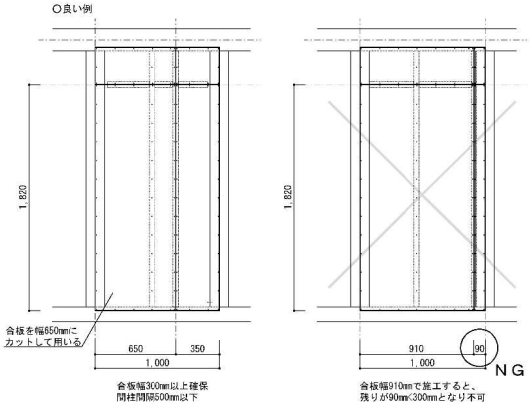
※すべての仕様は床勝・壁勝どちらも対応可とする。

（３）非耐力壁の面材釘ピッチ

材料	釘	ピッチ
構造用合板/構造用パネル	CN50・N50等	@200程度
石膏ボード	GNF40またはGNC40等	@200程度

（４）耐力壁を構成する合板の幅は300mm以上とする

例：耐力壁 1mに対しての合板910×1820mmの貼り方



株式会社 斎藤建築設計事務所・・ 一級建築士事務所登録 第13（101）0002号
白河市愛宕町２５番地　TEL 0248（23）2724 管理建築士　一級建築士登録　第217145号　齋藤正明

承認	CHECK	DRAW	DATE	NO
			R08.10	S-１０４

A1=100%　A3=50%縮小

木造標準図（３）

６Ｂ．昭５６建告第1100号第1第一号に基づく面材張り大壁耐力壁納まり図

（注）（単位）mm

6B.1 共通事項

- 面材は、 9mm以上を標準とする。
- 間柱・受材・筋違等構造に関わる羽柄材の品質については、未乾燥材および反付き材は不可とし、四面ピン角，ねじれ、反りの無い物とすることを原則とする。
- 釘ピッチの基準は使用釘本数を満たしている必要がある。
  記載のピッチは「辺の長さ÷ピッチ＋１本」と読むこととする。
- 開口直下の梁への間柱欠きは、原則行わない事。
- 間柱（受材）を梁等へ留め付ける場合、釘及び木質構造用ビスの長さは、受け材厚さの2.5倍以上を標準とする。

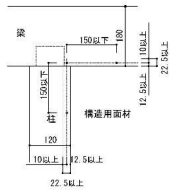
※受け材厚 30mm の場合は、N75、 CN75以上

※受け材厚 45mm（耳力を：水平力のみを負担する場合）は、N90、CN90以上
（真壁の受け材留め付けと合わせる）

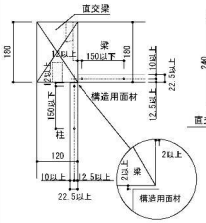
※受け材厚 45mm（水平青面：鉛直力と水平力を負担する場合）は、N115、木質構造用ビス L110以上

１．直交梁との取り合い

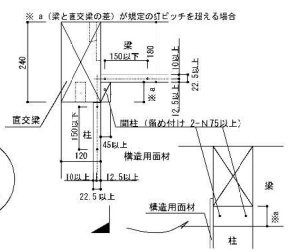
A ：通常



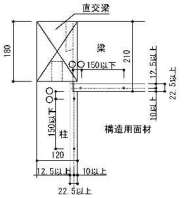
B ：合板端欠



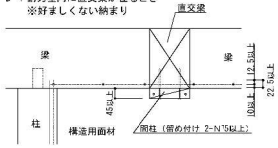
B-2 ：合板端欠



C ：柱持たせ

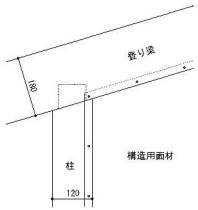


D ：耐力壁内に直交梁が在るとき
※好ましくない納まり

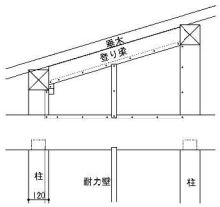


２．勾配屋根の納まり

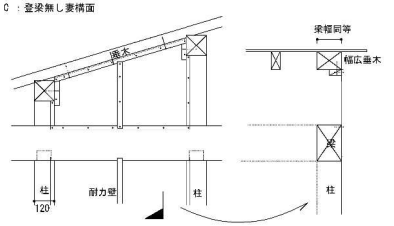
A ：登梁



B ：妻側横面納まり

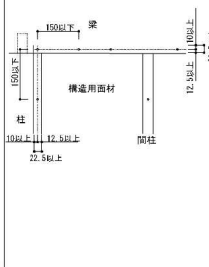


C ：登梁無し妻横面

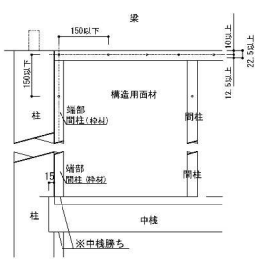


３．受材・間柱勝ち負けルール

A ：枠無し

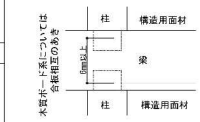


B ：枠有り

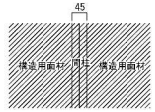


４．面材相互あきのルール

A ：上下面材あき

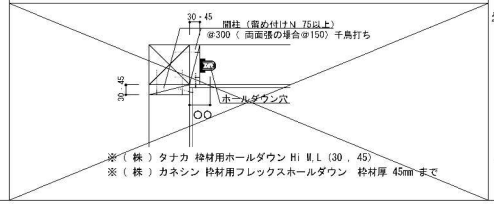


B：間柱取付面材あき



木質ボード系については
合板相互のあき ２ ～ 3mm

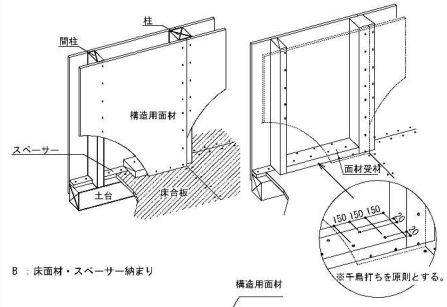
５．入隅時納め、及び枠材用ホールダウン納め



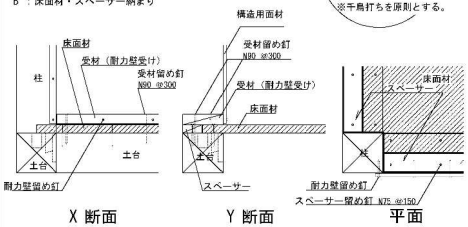
※（ 株 ）タナカ 枠材用ホールダウン Hi M,L（30 , 45）
※（ 株 ）カネシン 枠材用フレックスホールダウン 枠材厚 45mm まで

６．床勝面材との取り合い

A ：面材受材納まり

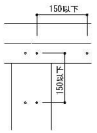


B ：床面材・スペーサー納まり

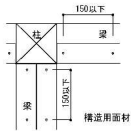


７．水平構面

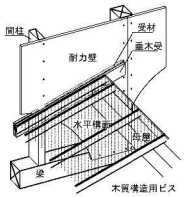
A ：通常



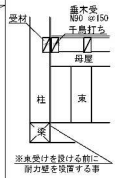
B ：合板端欠



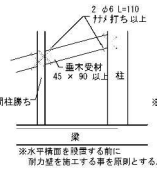
８．下屋部分の納まり



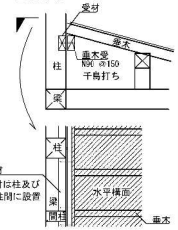
A ：前末仕様



B ：中桟仕様

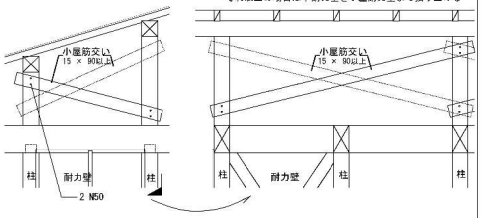


B-2 ：垂木受仕様

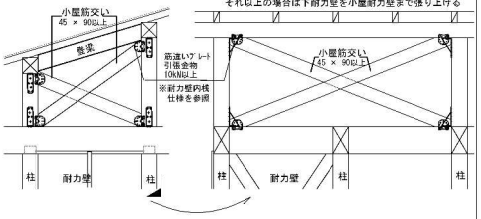


９．小屋筋交い

A ： 2倍耐力壁仕様



B ： 4倍耐力壁仕様



工事名	まるごと西郷館(飲食)	工事設計図・	図面名称	木造標準図(3)	株式会社 斎藤建築設計事務所・・ 一級建築士事務所登録 第13（101）0002号	承認	CHECK	DRAW	DATE	NO
			縮尺	－	白河市愛宕町２５番地 TEL 0248（23）2724 管理建築士 一級建築士登録 第217145号 斎藤正明				R08.10	S-１０５

A1=100% A3=50%縮小

木造標準図（４）

7．水平構面

（注）（単位）mm

7.1 共通事項

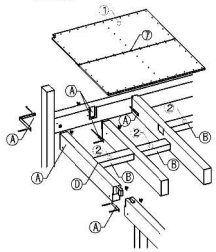
・木造軸組み工法住宅の許容応力度設計（2017年）の詳細計算法による水平構面については、同書の規定に準拠することとし、釘ピッチ配列等の仕様については設計図による。

・指定性能評価機関またはそれに準じる公共の評価機関で成績書を取得して耐力が明示された水平構面については試験成績書の仕様に準拠することとする。

7.2 水平構面の仕様

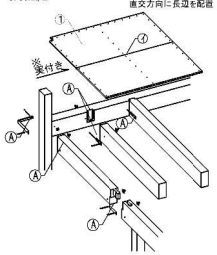
（１）木造軸組工法住宅の許容応力度設計に準じた床構面

（ａ）目の字釘打ち
短期許容せん断耐力
7.84kN/m



（ｂ）川の字釘打ち
短期許容せん断耐力
3.53kN/m

※ 合板は、根太材に対し直交方向に長辺を配置



1） 各部材料および寸

①	面材：構造用合板t=24mm ～30mm 根太材に直貼
②	甲乙梁：幅45mm 以上×せい45mm 以上・梁及び甲乙梁の間隔1000mm 以下

2） 各部仕口形状及び性能

Ⓐ	各仕口部分： 水平力時に桂手、仕口各部へをじる引張力を上回る耐力の金物を使用する
Ⓑ	構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
Ⓒ	高低差のある梁へは側面に床受け材を取り付け構造用合板を受ける構成
Ⓓ	甲乙梁端部は小梁に対して深さ15mm 程度の欠入れ　N75　1本斜め打ち

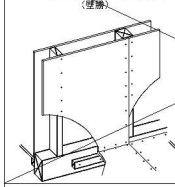
3） 各部への釘打及びビス止め

⑦	構造用合板にN75@150mm 目の平釘打ちで根架材，甲乙梁，床受材に留め付ける ※ 釘仕様の特記記載がある場合は、構造伏図の釘仕様を優先する。
④	構造用合板にN75@150mm 川の字釘打ちで根架材，甲乙梁，床受材に留め付ける ※ 構造用合板は、実付きとする ※ 釘仕様の特記記載がある場合は、構造伏図の釘仕様を優先する。

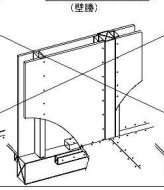
注意事項：構造用合板（又は OSB ）に対する釘頭のめり込みは、 2mmを限度とする
2mmを超える場合は隣り合う釘との中間部に増し打ちすること
川の字釘打ちに構造用合板上に直接フローリングを貼る構成の場合、撓み等に注意する事

告示耐力壁 -床納まり

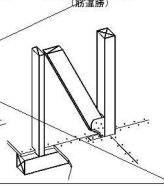
大壁合板耐力壁 -床横面（壁勝）



真壁合板耐力壁 -床横置（壁勝）

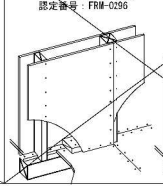


筋違耐力壁 -床横面（筋違勝）

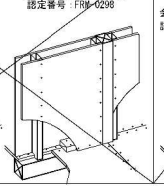


認定仕様例示）日合連（ JPMA ）仕様耐力壁 -床勝納まり

大壁合板耐力壁 -床勝
認定番号：FRM-0296

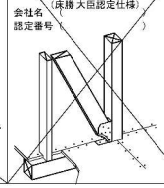


真壁合板耐力壁 -床勝
認定番号：FRM-0298



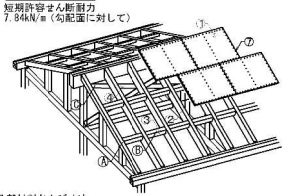
筋違金物による床勝ち納まり

筋違耐力壁 -床横置（床勝 大臣認定仕様）
会社名
認定番号



（２）木造軸組工法住宅の許容応力度設計に準じた屋根構面

（ａ）登梁 厚合板
短期許容せん断耐力
7.84kN/m（勾配面に対して）



1） 各部材料および寸法

①	面材：構造用合板t=24mm ～30mm 構架材に直貼
②	登梁：幅105mm以上×せい105mm 以上　間隔1000mm以下
③	甲乙梁：幅45mm以上×せい45mm 以上　間隔1000mm以下
④	小屋耐力壁：15mm以上×90mm以上 （ 端部は平 12 建告 1460 号の筋違耐力壁の接合 ）

2） 各部仕口形状及び性能

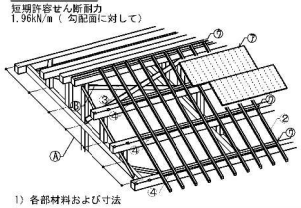
Ⓐ	各仕口部分：水平力時に継手、仕口各部へ生じる引張力を上回る耐力の金物を使用する
Ⓑ	構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
Ⓒ	耐力壁から勾配屋根水平構面までせん断力を伝達できるよう、耐力壁線上には同等以上の壁量となるよう小屋耐力壁（くも筋違い）を設ける事

3） 各部への釘打及びビス止め

⑦	構造用合板はN75 @150mm で目の字に垂木に留め付ける ※釘仕様の特記記載がある場合は、構造伏図の釘仕様を優先する。

注意事項：構造用合板（又は OSB）に対する釘頭のめり込みは、2mmを限度とする

（ｂ）垂木 合板
短期許容せん断耐力
1.96kN/m（ 勾配面に対して）



1） 各部材料および寸法

①	面材：構造用合板t=9mm ～15mm （横置）
②	垂木：幅45mm以上×せい45mm ～90mm @500mm以下
③	小屋耐力壁：15mm以上×90mm以上 （端部は平12 建告 1460号の筋違耐力壁の接合）
④	転び止め：45mm ×60mm 程度

2） 各部仕口形状及び性能

Ⓐ	母屋ピッチ：1000mm以下
Ⓑ	耐力壁から勾配屋根水平構面までせん断力を伝達できるよう、耐力壁線上には同等以上の壁量となるよう小屋耐力壁（くも筋違い）を設ける事

3） 各部への釘打及びビス止め

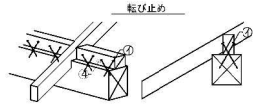
⑦	構造用合板はN50@150mm で川の字に垂木に留め付ける ※釘仕様の特記記載がある場合は、構造伏図の釘仕様を優先する。
④	転び止めを梁に 2-N75 斜め釘止め
⑦	垂木の留め付けは、垂木の側面から軒桁、母屋、棟木の上面に対して N75 釘2本打ち

ひねり金物

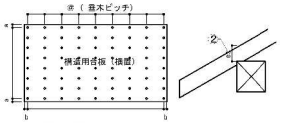


注意事項：ひねり金物を使用する際、軒先・棟だけでなく垂木 - 母屋の接合全てに使用する

転び止め

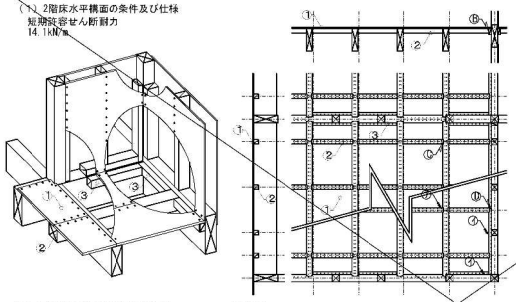


注意事項：軒桁・母屋・棟木の上面の垂木と垂木の間（母屋の場合は垂木の継目が載る母屋）に、転び止め材を載せ、転び止め材の側面から軒桁・母屋・棟木の上面に N75釘4本 表2本と裏2本を千鳥釘匹）を斜め打ち



7.3 JISA3301 仕様高耐力水平構面

（１）2階床水平構面の条件及び仕様
短期許容せん断耐力
14.1kN/m



1） 各部材料

①	面材：構造用合板t=24mm 又は28mm 横架材に直張り
②	甲乙梁：90mm ×90mm の正角材又は幅75mm ×成120mm 製材を平使い
③	大梁側面に取り付ける床受材：幅55mm ～75mm ×成120mm の製材

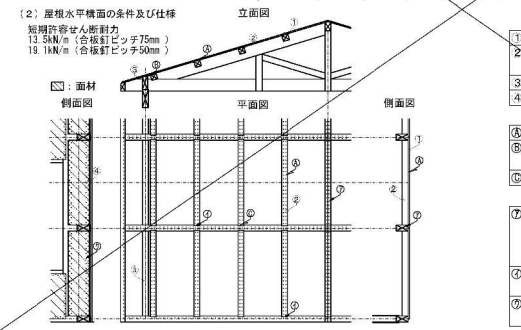
2） 各部仕口形状及び性能

Ⓐ	構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
Ⓑ	高低差のある梁へは側面に床受け材を取り付け構造用合板を受ける構成
Ⓒ	甲乙梁端部は小梁に対して深さ15mm 程度の欠入れ
Ⓓ	甲乙梁端部は床受け材に対して床受け材を深さ15mm ×成60mm 切り欠き甲乙梁は成60mm 分欠入れし床受け材勝ちの納まりとする

3） 各部への釘打及びビス止め

⑦	構造用合板はN75@75mm 目の字釘打ちで横架材，甲乙梁，床受材に留め付ける
④	大梁側面へ取り付ける床受材は木質構造用ビス φ 6,L130 ～ 150 を 150mm ピッチの二列打ちとして留め付ける

（２）屋根水平構面の条件及び仕様
短期許容せん断耐力
12.5kN/m（合板釘ピッチ75mm ）
19.1kN/m（合板釘ピッチ50mm ）



1） 各部材料

①	面材：構造用合板t=24mm 登梁及び母屋に直張り
②	母屋：幅120 mm×成120 mm の製材 多雪区域（3級及び4級）の場合は幅120mm×成150mm の製材
③	軒先転び止め：幅105mm×成300mm の製材を用い，天端は屋根面に合わせ切り欠く
④	軒先転び止めの外面に直貼りする構造用合板：t=12mm

2） 各部仕口形状及び性能

Ⓐ	構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には母屋を設ける
Ⓑ	屋根の合板レベルに対して低い位置にある軒先の大梁上に転び止めを設け構造用合板を受ける構成
Ⓒ	母屋端部は登梁に対して深さ15mm 程度の欠入れ

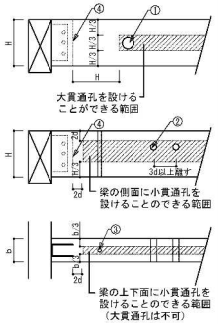
3） 各部への釘打及びビス止め

⑦	13.5kN/m仕様：構造用合板はN75@75mm 4周（ロの字）釘打ちで登梁及び母屋に留め付ける 19.1kN/m仕様：構造用合板はN75@50mm 4周（ロの字）釘打ちで登梁及び母屋に留め付ける
④	母屋端部に対して吹上対策として木質構造用ビス φ5,L150（頭部径 φ 12.5以上ねじ部長さ 50以上） 1本を斜め打ちとする
⑦	軒先大梁と転び止めの外面に直張りする構造用合板は，N50くぎを 50mmピッチの千鳥打ちとして留め付ける

8．貫通孔

8.1 梁貫通孔の条件及び仕様

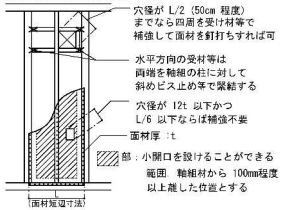
①	大貫通孔：d≦H/4かつ150mm
②	小貫通孔 d≦30mm（隣り合う孔は3d以上離す）
③	縦小貫通孔 d≦b/5かつ30mm
④	接合金物用切り欠きライン



8.2 耐力壁貫通孔

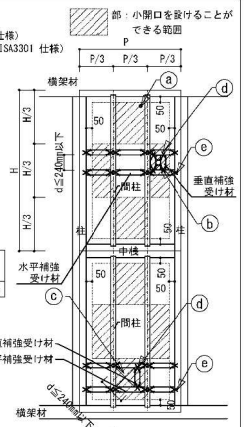
（１）小開口付耐力壁：木造軸組工法住宅の許容応力度設計（2017 年版 ）

※壁倍率 7 倍までの孔開けルール



則性・耐力に影響しない
面材耐力壁の小開口の設け方

（２）高耐力仕様合板貼耐力壁（JISA3301 準準仕様）
※壁倍率 7 倍を超える場合の孔開けルール（JISA3301 仕様）



a）貫通孔基準

ⓐ	小貫通孔（d≦30mm） 1区画につき 1か所までなら補強不要
ⓑ	小貫通孔×3（外接円の径d≦240mm） 四周を補強受材で補強 面材 1枚につき 1か所のみ可
ⓒ	大貫通孔（d≦240mm） 四周を補強受材で補強 面材 1枚につき 1か所のみ可

b）釘打ち及び断面

ⓓ	合板から補強受材へ N50@90mm で釘打ち 補強受材は間柱と同寸以上の断面
ⓔ	補強受け材の留め付けは斜めビス 2 本止め

8.3 柱貫通孔の条件及び仕様

柱幅W	最大穴径
120mm以上	30mm以下
105mm	20mm以下

※貫通孔は２箇所までとする。
※上記より貫通孔を大きくするときは現計者の確認をとる。
※方杖が取り付く柱においては水平力を負担するので貫通孔を設けないこと。



工事名	まるごと西郷館(飲食)	工事設計図・	図面名称	木造標準図(4)	縮尺	－

株式会社 斎藤建築設計事務所・・ 一級建築士事務所登録 第13（101）0002号
白河市愛宕町２５番地 TEL 0248（23）2724 管理建築士 一級建築士登録 第217145号 斎藤正明

承認	CHECK	DRAW	DATE	NO
			R08.10	S-106

A1=100% A3=50%縮小

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

１．一般事項

（１）適用範囲
構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

（２）記号
d･･･ 異形棒鋼の呼び名に用いた数値 丸鋼では径　　D ･･･ 部材の成　　R ･･･ 直径
s･･･ 間隔　　r･･･ 半径　　ℓ ･･･ 中心線　　h_0 ･･･ 部材間の内法高さ
ST･･･ あばら筋　HOOP･･･ 帯筋　S.HOOP･･･ 補強帯筋　φ ･･･ 直径又は丸鋼

２．鉄筋加工、かぶり

（１）鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	折まげ角度 90°はスラブ筋、壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込む「形および L形梁のキャップタイにのみ用いる。
図				
鉄筋の余長	4d以上	6d以上(※ 4d以上)	8d以上(※ 4d以上)	
折曲げ内法寸法R は、SR235は 3d以上、SD295A、SD295B SD345の D13以下は、3d以上、D19以上は 4d以上				※片持スラブ、上端筋の先端

（２）鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋折り曲げ角度 90° 以下

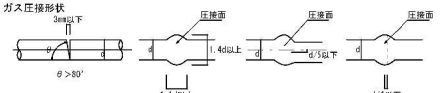
図	鉄筋の使用箇所による明称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内のり寸法
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235 、 SD295A SD295B 、 SD345	16φ D16 以上 19φ D19 以上	3d以上 4d以上
	上記以外の鉄筋	SR235 、 SD295A SD295B 、 SD345	16φ D16 以上 19φ～25φ D19 ～ D25 28φ～32φ D29 ～ D38	4d以上 6d以上 8d以上

（３）鉄筋の定着及び重ね継手長さ

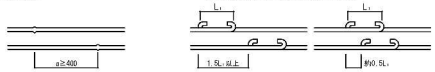
鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm²)	定着の長さ			特別の定着及び重ね継手の長さ (L_1)
		一般 (L_2)	下端筋 (L_3)		
			小梁	スラブ	
SR235	21 ～ 36	35dフックつき	25d フックつき	15d フックつき	35dフックつき
	18以下	45dフックつき			45dフックつき
SD295A SD295B SD345	21 ～ 36	35d または 25dフックつき	25d または 15dフックつき	10d かつ 150mm以上	40d または 30d フックつき
	18以下	40d または 30dフックつき			45d または 35d フックつき

継 手
・末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
・継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
・直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
・D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
・鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない

ガス圧接形状

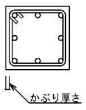


圧接継手　　重ね継手（下図のいずれかとする）



（４）かぶり厚さ（単位：mm）

ひびわれ誘発目地部など鉄筋のかぶり、床さが部分的に減少する箇所についても最小かぶり厚さを確保する。



部位			設計かぶり厚さ (mm)	最小かぶり厚さ (mm)
土に接しない部分	耐震スラブ 床スラブ 計耐力壁	屋 内	30	20
		屋 外	40	30(20)
	庇り 公共	屋 内	40	30
	耐力壁	屋 外	50	40(30)
	擁	壁	50	40
	柱・はり・スラブ・耐力壁		50	40 [1]
土に接する部分	基 礎 ・ 擁 壁		70	60 [1]

※(1) 軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。
※(　) 内は仕上げがある場合。

（５）鉄筋のあき
丸鋼では径、異型鉄筋では呼び名に用いた数値 1.5d以上
粗骨材の最大寸法の 1.25倍以上かつ 25d以上

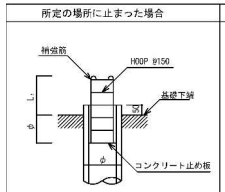
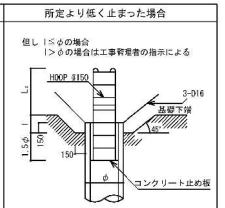


（６）鉄筋のフック（a-f に示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。）
a：丸鋼　　b：あばら筋・帯筋　　c：煙突の鉄筋
d：柱、梁（基礎梁は除く）の出すみ部分の鉄筋（右図参照）
e：単純梁の下端筋
f：その他、本配筋標準に記載する箇所

図の●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要

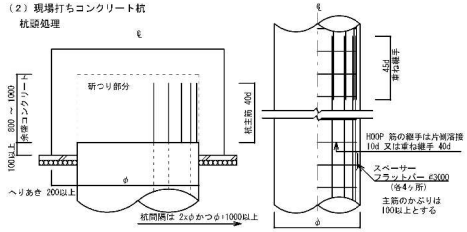
３．杭（地震力等の水平力を考慮する必要のある場合は、別途検討すること。）

（１）PC杭、又は PHC杭の全てに補強を行う

所定の場所に止まった場合	所定より低く止まった場合
	

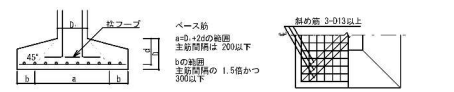
杭 径	300φ、350φ	400φ	450φ	500φ	600φ
補 強 筋	6-D13	8-D13	10-D13	8-D16	10-D16
H O O P	D10-@150				

（２）現場打ちコンクリート杭

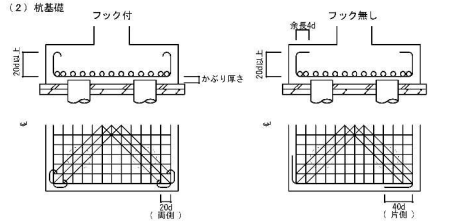


４．基 礎

（１）直接基礎

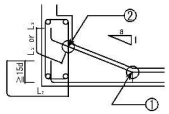


（２）杭基礎



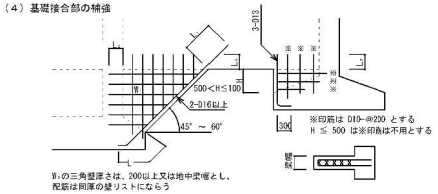
（３）べた基礎

ハンチを付けた場合（a ≧ 3）



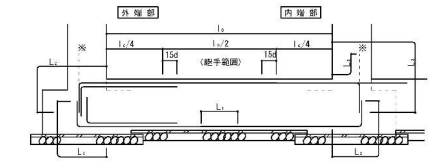
・耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう
但し上筋と下筋を読みかえる
・①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
・②の鉄筋はD13以上
・壁際し土のある場合は 40 を 7C とする

（４）基礎接合部の補強

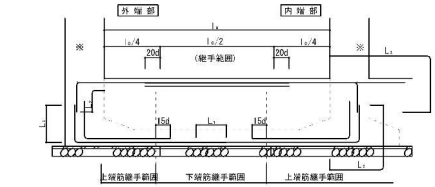


５．地中梁

（１）独立基礎、杭基礎の場合（定着、継手）

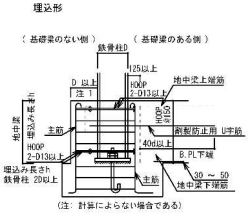


（２）布基礎、べた基礎の場合（定着、継手）

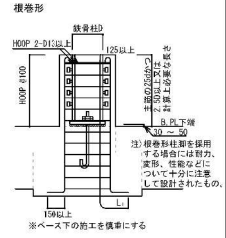


（３）小規模鉄骨構造の柱脚固定の配筋
※地中梁の主筋と頭付スタッドによる、おさまりに注意する

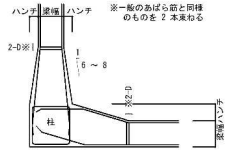
埋込形



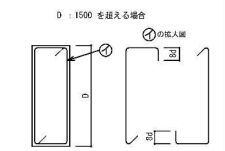
根巻形



（４）水平ハンチの場合のあばら筋加工要領

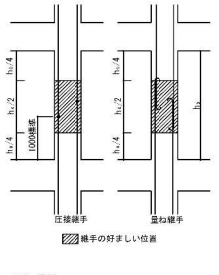


（５）せいの高い梁のあばら筋加工要領図

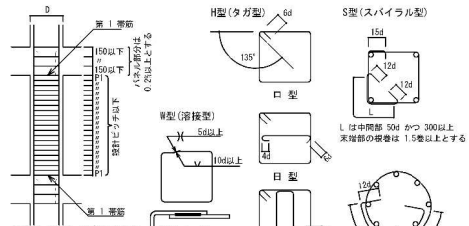


６．柱

（１）柱主筋の継手　　（２）柱主筋の定着

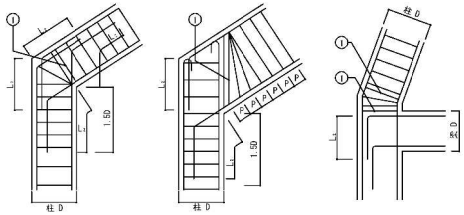


（３）帯筋



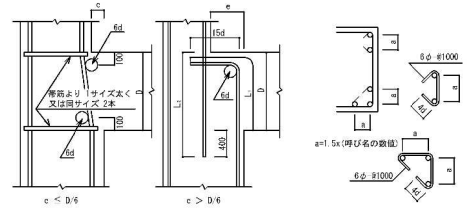
（４）斜め柱・斜め梁

柱幅と斜材（柱又は梁）幅が同一　　柱幅と斜材幅が異る　　柱脚で斜材となる



※1.5D の範囲の柱の帯筋は一段太いものか、又はダブル巻きとし @100以下とする
※①の鉄筋は2-D13かつ、2本の一段太い鉄筋とする

（５）絞り　　（６）二段筋の保持



工事名	まるごと西郷館(飲食)　工事設計図・	図面名称	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)	株式会社 斎藤建築設計事務所・・ 一級建築士事務所登録 第13（101）0002号 白河市愛宕町２５番地　TEL 0248（23）2724 管理建築士　一級建築士登録　第217145号　斎　藤　正　明	承認	CHECK	DRAW	DATE	NO
		縮尺	－					R08.10	S－１０７

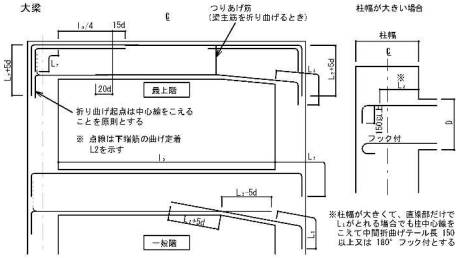
A1=100%　A3=50%縮小

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

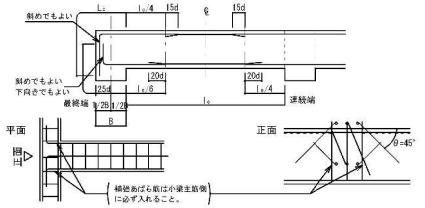
７．大梁、小梁、片持梁

（１）定着

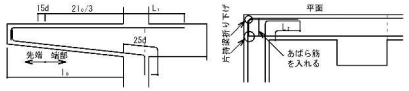
大梁



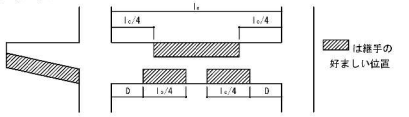
小梁の定着



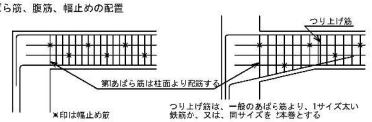
片持梁の定着



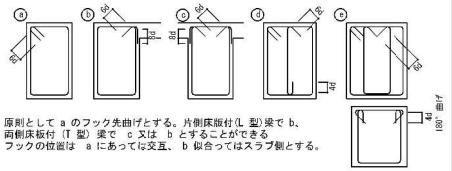
（２）大梁主筋の継手



（３）あばら筋、腹筋、幅止めの配置

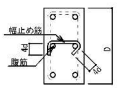


（４）あばら筋の型（注：床板がない場合は 135 ° 以上のフックとする）



（５）幅止め筋の本数、加工

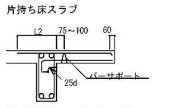
腹筋	D ＜ 600 不要 600 ≦ D ＜ 900　2-D10(9φ)1段 900 ≦ D ＜ 1200　4-D10(9φ) 2段 1200 ≦ D　D10(9φ)@300以内	
幅止め筋	D10(9φ)@1000以内で割り付ける	



８．床板

（１）定着および継手

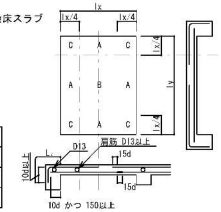
片持ち床スラブ



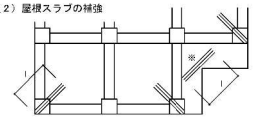
継手位置は原則として下表による。

		標準継手位置
上端筋	端辺方向	B
	長辺方向	B
下端筋	短辺・長辺方向	A　C

一般床スラブ

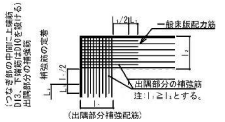


（２）屋根スラブの補強

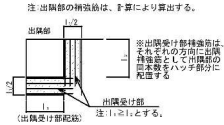


・補強筋は各 2-D13 又はスラブ主筋の同一径で l=1500とし、上端筋の下に配筋する。
・※の箇所(入隅)は各階補強する。

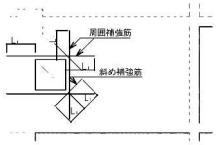
（３）片持ちスラブ出隅部補強



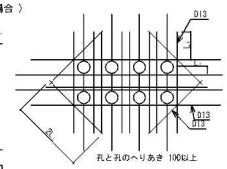
注：出隅部の補強筋は、計算により算出する。



（４）床板開口部の補強（ 開口の径500程度の場合 ）

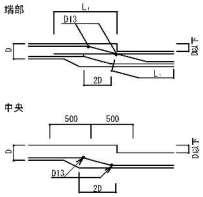


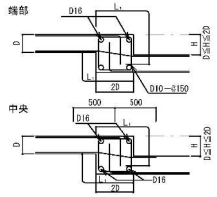
床板厚さD	周　囲	斜　め
D≦150	各2－D13	各1－D13
150＜D≦200	各2－D13	各2－D13
200＜D≦300	各2－D19	各2－D16



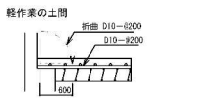
注：設備の小開口が遥挽してあく場合は縦、横、斜補強筋とは別に開口によって切られる鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強する。

（５）床板段差

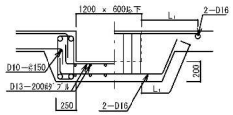




（６）土間コンクリート



（７）釜場



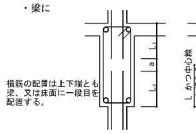
（８）打継ぎ補強(ダメ穴打継面について)

・設計配筋間隔の1/2ピッチ 長さ2L 以上
・無筋部分 D10—@200 長さ800以上

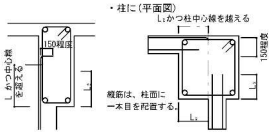
９．壁

（１）定着

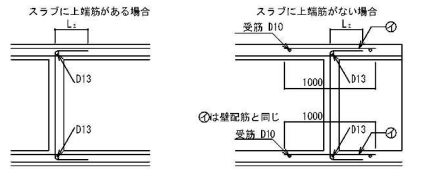
・梁に



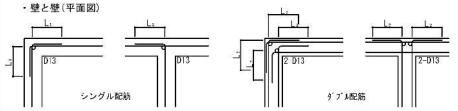
・柱に（平面図）



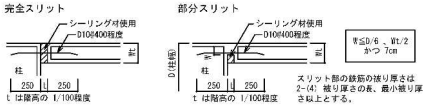
・床に （非耐力壁とスラブが取り合う場合）



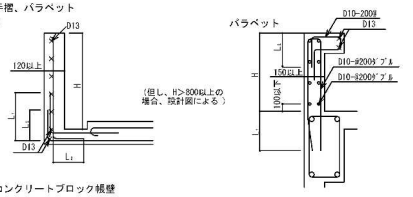
・壁と壁（平面図）



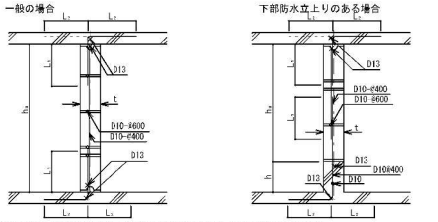
（２）スリット部（設計図に記入のあるとき）



（３）手摺、パラペット



（４）コンクリートブロック帳壁

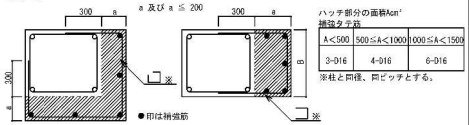


※h_1≦25tかつ3500以下とする。但し直交方向25t以内に壁、又は柱がある場合は除く
※hはコンクリートブロック段積施第十法とする。但し、200≦h≦400
※継手部は必ずモルタルを充填すること

１０．柱、梁増打コンクリート補強

※増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打ち合わせのこと

（１）柱

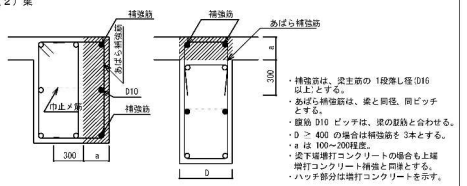


ハッチ部分の面積cm^2

補強タテ筋		
A＜500	500≦A＜1000	1000≦A＜1500
3-D16	4-D16	6-D16

※柱と同径、同ピッチとする。

（２）梁

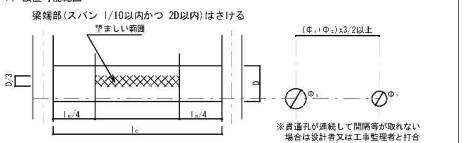


・補強筋は、梁主筋の 1段落し径(D16 以上)とする。
・あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする。
・腹筋 D10 ピッチは、梁の肋筋と合わせる。
・D ≧ 400 の場合は補強筋を 3本とする。
・a は 100～200程度。
・梁下端増打コンクリートの場合も上端増打コンクリート補強と同様とする。
・ハッチ部分は増打コンクリートを示す。

１１．梁貫通孔補強

（１）設置可能範囲

梁端部(スパン l/10以内かつ 2D以内)はさける

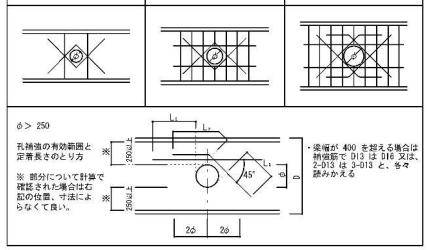


※貫通孔が連続して間隔寄が取れない場合は設計者又は工事監理者と打合せのこと。

（２）鉄筋標準配筋

※ 但し、φ≦ D/3 とする

80 ＜φ≦ 100	100 ＜φ≦ 150	150 ＜φ≦ 250
折 筋　2-(2-D13)	折 筋　2-(2-D13)	斜 筋　4-(2-D13)
縦 筋　ST2-D13	縦 筋　ST2-D13-@100	縦 筋　ST2-D13-@100
	横 筋　2-(2-D13)	横 筋　2-(2-D13)
		上下縦筋　ST2-D13



（３）既製品

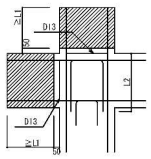
※使用するときは、設計者又は工事監理者と打合せのこと

□ リング型　□ パイプ型　□ 金網型　□ プレート型

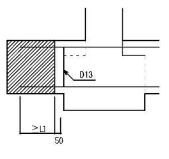
１２．増築予定

※将来増築予定のコンクリート間仕打ち部分は、増築時の鉄筋継手工事を考慮して配置する

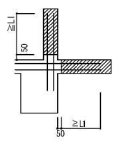
（１）柱、梁



（２）地中梁

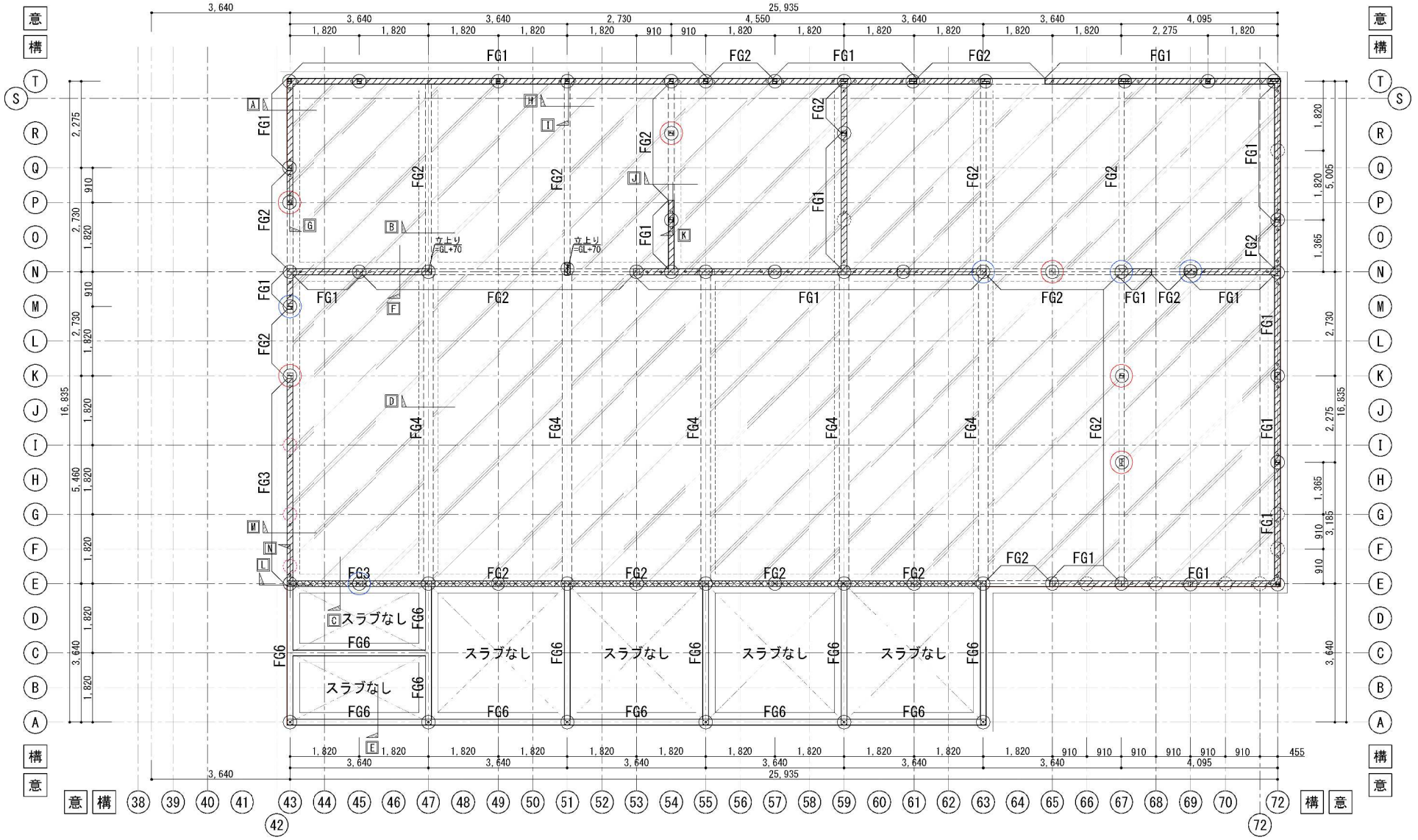


（３）床版、壁



工事名	まるごと西郷館(飲食)　工事設計図・	図面名称	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)	株式会社 斎藤建築設計事務所・・ 一級建築士事務所登録 第13（101）0002号 白河市愛宕町２５番地　TEL 0248（23）2724 管理建築士　一級建築士登録　第217145号　斎藤正明	承認	CHECK	DRAW	DATE	NO
		縮尺	－					R08.10	S－１０８

A1=100%　A3=50%縮小



基礎伏図記号凡例	
⊠	柱脚コネクターの位置を示す
○	土台用アンカーボルト
▨	増し打ち(GL+300・均し含む)
▨	増し打ち(GL+210・均し含む)

○	コンクリートを斫り取ったのち、接合金物配置
○	コンクリートを斫り取ったのち、配筋して再打設

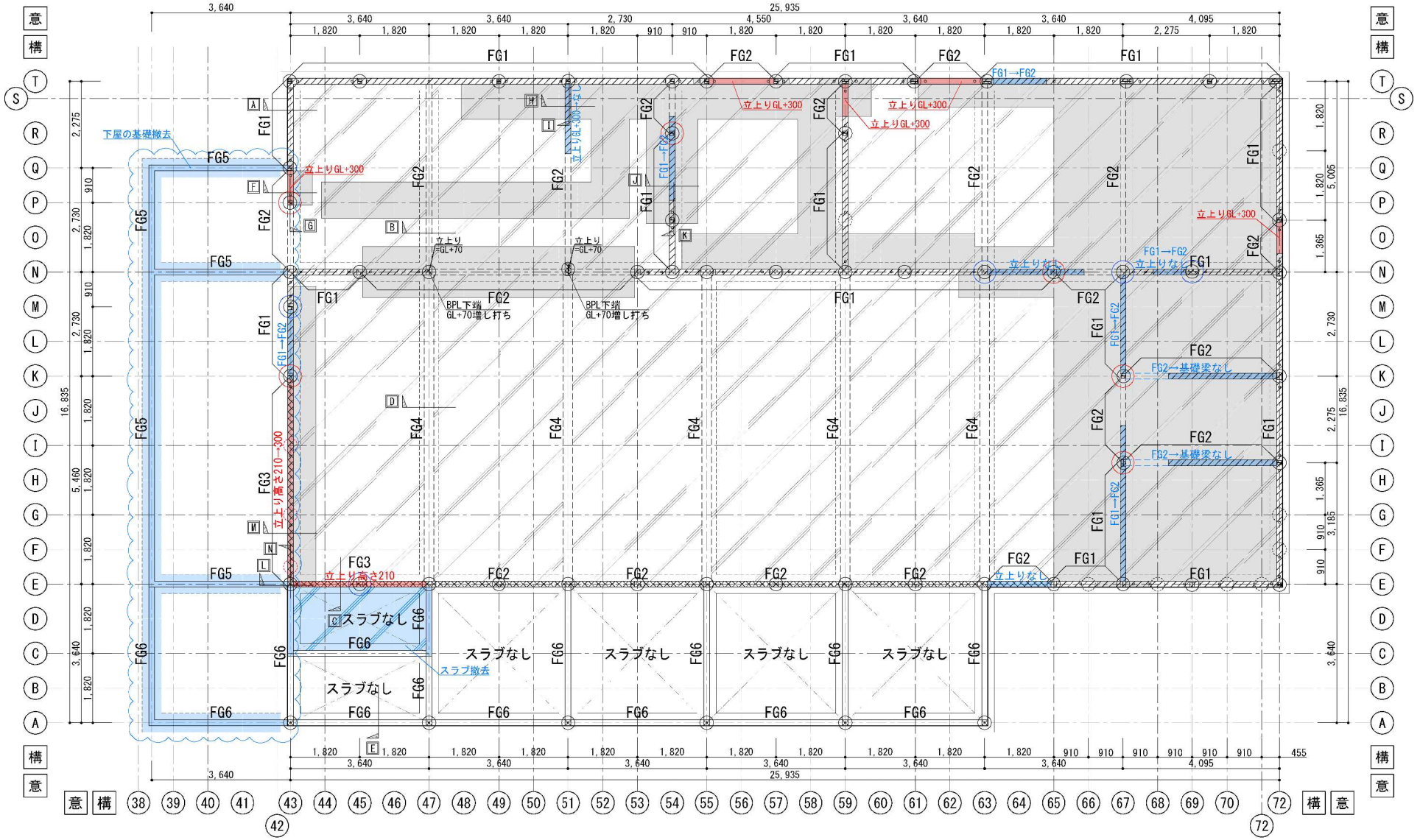
基礎梁外周面は芯から85mm(75mm+10mm)とする。

土間コンクリートは、GL+50mmとする。

特記なきフーチングは、Ｆ１とする。

工事名	まるごと西郷館(飲食)	工事設計図・	図面名称	基礎伏図	株式会社 斎藤建築設計事務所・・ 一級建築士事務所登録 第13（101）0002号 白河市愛宕町２５番地 TEL 0248（23）2724 管理建築士 一級建築士登録 第217145号 斎藤正明	承認	CHECK	DRAW	DATE R08.10	NO S-１０９
			縮尺	A1=1:50 A3=1:100						

A1=100% A3=50%縮小



基礎伏図記号凡例	
⊠	柱脚コネクターの位置を示す
○	土台用アンカーボルト
▨	増し打ち(GL+300・均し含む)
▨	増し打ち(GL+210・均し含む)

○	コンクリートを斫り取ったのち、接合金物配置
○	コンクリートを斫り取ったのち、配筋して再打設
▭	基礎増築箇所
▭	基礎減築箇所
▭	ｺﾝｸﾘｰﾄを斫り取ったのち、配筋して再打設

基礎梁外周面は芯から85mm(75mm+10mm)とする。

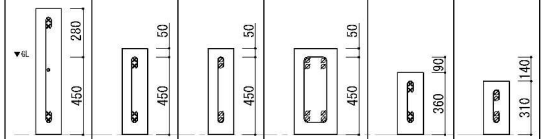
土間コンクリートは、GL+50mmとする。

特記なきフーチングは、Ｆ１とする。

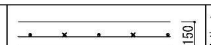
工事名	まるごと西郷館(飲食)	工事設計図・	図面名称	基礎伏図(改築工事)	株式会社 斎藤建築設計事務所・・ 一級建築士事務所登録 第13（101）0002号	承認	CHECK	DRAW	DATE R08.10	NO S-１１０
			縮尺	A1=1:50 A3=1:100	白河市愛宕町２５番地 TEL 0248（23）2724 管理建築士 一級建築士登録 第217145号 斎藤正明					

A1=100% A3=50%縮小

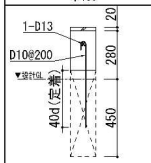
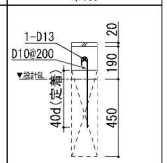
基礎梁リスト

記号	FG1	FG2	FG3	FG4	FG5	FG6
b×D	150(d)×730(D)	150(d)×500(D)	150(d)×500(D)	250(d)×500(D)	150(d)×360(D)	150(d)×310(D)
断面						
上端主筋	2-D13	2-D13	2-D16	4-D16	2-D13	2-D16
下端主筋	2-D13	2-D13	2-D16	4-D16	2-D13	2-D16
STP	D10-@200	D10-@200	D10-@200	□-D10-@200	D10-@200	D10-@200
腹筋						
巾止め筋						

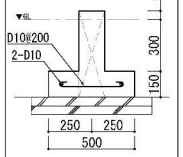
土間コンクリート配筋

土間		シングル 長辺・短辺方向 D10, D13@200

立ち上がり配筋

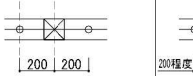
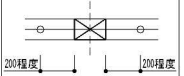
立上り増し打ち	立上り増し打ち
巾150	巾150
	

フーチングリスト

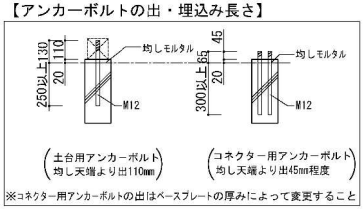
記号	F1
断面	

※特記なきフーチングは、F1とする。

【土台用アンカーボルト設置位置】

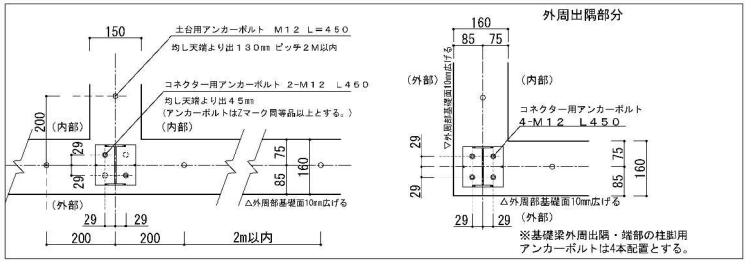
柱120角部分	柱120角以外の部分
	
柱面から200mm離して設置	柱面から200mm程度離して設置

【アンカーボルトの出・埋込み長さ】

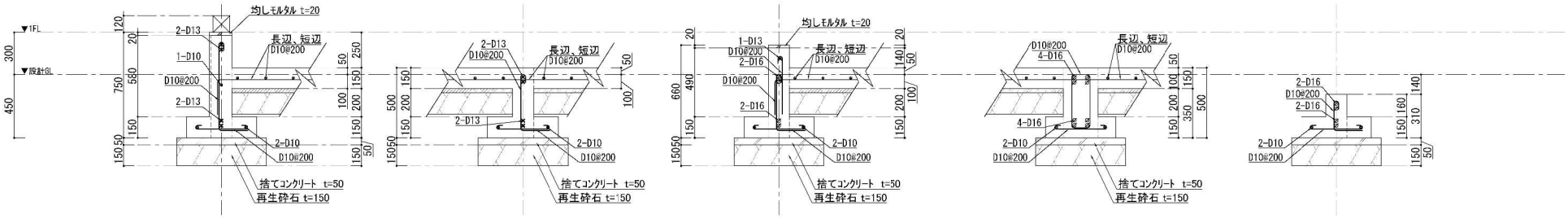


※コネクター用アンカーボルトの出はベースプレートの厚みによって変更すること

【アンカーボルト配置図】



※基礎梁外周出隔・端部の柱脚用
アンカーボルトは4本配置とする。



工事名	まるごと西郷館(飲食)	工事設計図・	図面名称	基礎詳細断面図(1)	縮尺	A1=1:15 A3=1:30

株式会社 斎藤建築設計事務所・・ 一級建築士事務所登録 第13(101)0002号
白河市愛宕町25番地 TEL 0248(23)2724 管理建築士 一級建築士登録 第217145号 斎藤正明

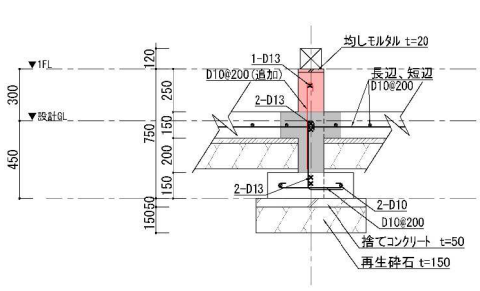
承認	CHECK	DRAW	DATE	NO
			R08.10	S-111

A1=100% A3=50%縮小

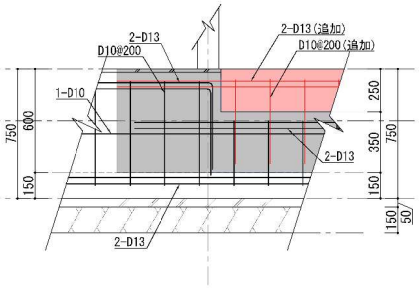
詳細断面図凡例	
	基礎増築箇所
	基礎減築箇所

詳細断面図凡例	
	追加鉄筋
	除去する鉄筋

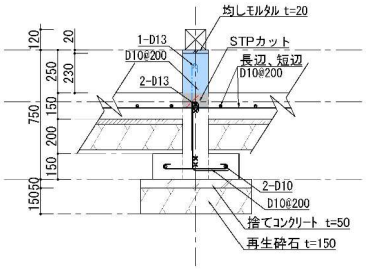
	コンクリートを斫り取ったのち、配筋して再打設
	鉄筋のカット位置を示す



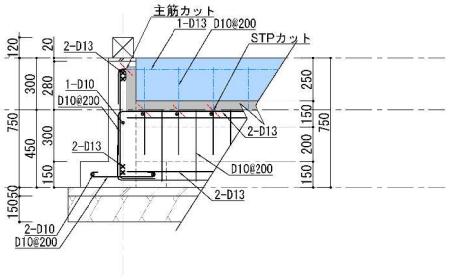
F部　断面詳細図



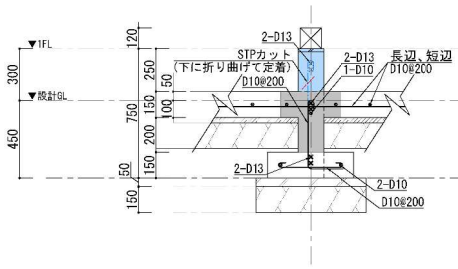
G部　断面詳細図



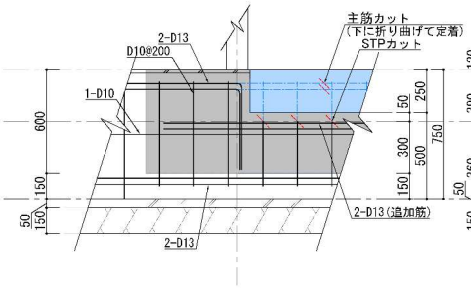
H部　断面詳細図



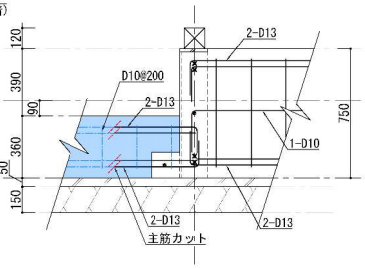
I部　断面詳細図



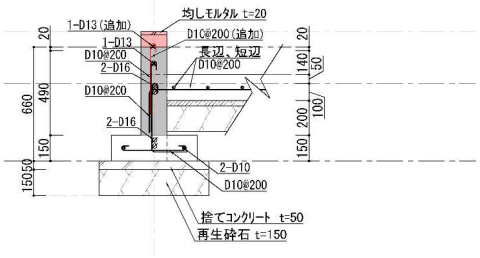
J部　断面詳細図



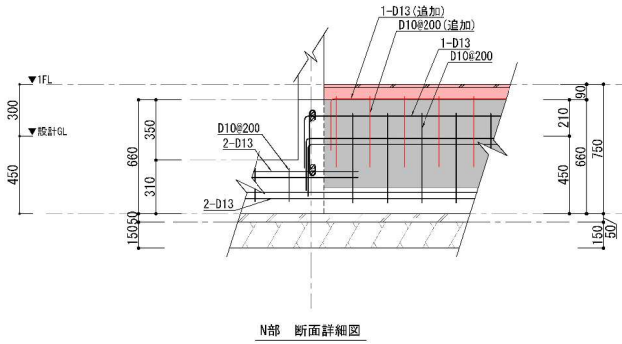
K部　断面詳細図



L部　断面詳細図



M部　断面詳細図

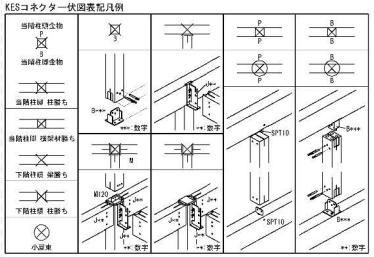


N部　断面詳細図

工事名	まるごと西郷館(飲食)　工事設計図・	図面名称	基礎詳細断面図(2)	株式会社 斎藤建築設計事務所・・ 一級建築士事務所登録 第13（101）0002号	承認	CHECK	DRAW	DATE	NO
		縮尺	A1=1:15 A3=1:30	白河市愛宕町25番地　TEL 0248（23）2724　管理建築士　一級建築士登録　第217145号　斎藤正明				R08.10	S-112

A1=100%　A3=50%縮小

KESコネクター伏図表記凡例



耐力壁凡例 ▨ は耐力壁位置を示す

凡例	壁倍率	面材の仕様	釘の仕様	納まり参考図
5.0	5.0倍	構造用合板 9.0mm 又は 構造用パネル(OSB) 9.0mm 両面張り	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@100mm以下	構造用合板 9mm 又は OSB 9mm 120 横張用合板 9mm 又は OSB 9mm
2.5	2.5倍	構造用合板 9.0mm 又は 構造用パネル(OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@200mm以下	構造用合板 9mm 又は OSB 9mm 120

※すべての仕様は床勝・壁勝どちらも対応可とする。

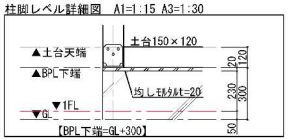
指定なき土台はD12とする。
指定なきBPL下端レベルはGL+300とする。
▭ は化粧材を示す。
X:＊、Y:＊は各方向の部材の芯ズレ量を示す。
➤は部材の芯ズレ方向を示す。
指定なき土台の樹種は桧集成材
指定なき柱の樹種は唐松集成材E95
指定なき梁の樹種は唐松集成材E95
⩘⩗ は片筋交いを示す。(化粧V09の樹種は杉製材)

SB-W使用

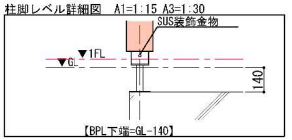
壁合板910×1820×9mm

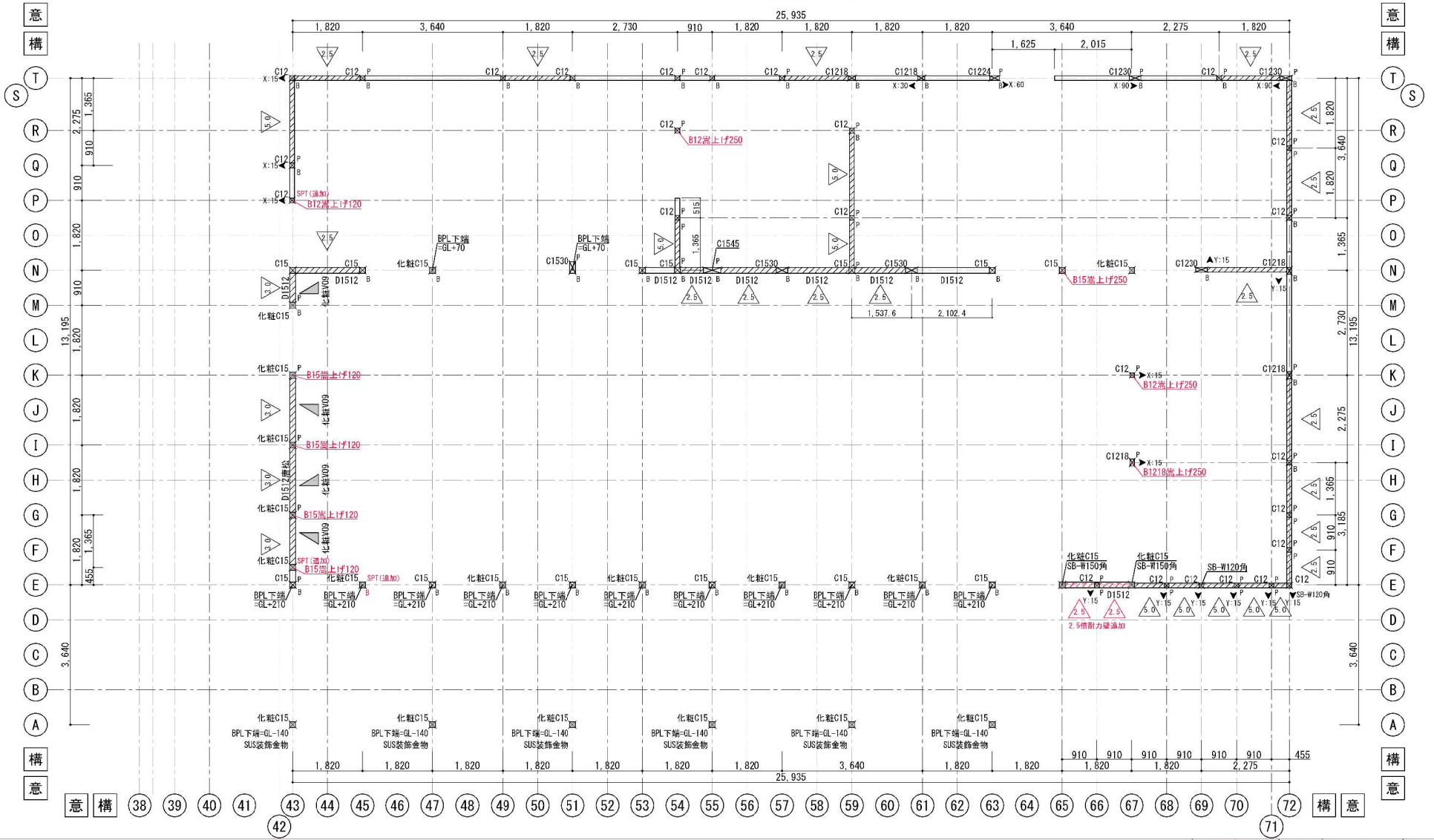
基礎パッキンなし

柱脚レベル詳細図 A1=1:15 A3=1:30



柱脚レベル詳細図 A1=1:15 A3=1:30





工事名 まるごと西郷館(飲食) 工事設計図・

図面名称 土台伏図

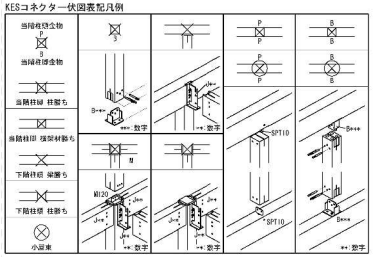
縮尺 A1=1:50 A3=1:100

株式会社 斎藤建築設計事務所・・ 一級建築士事務所登録 第13(101)0002号
白河市愛宕町25番地 TEL 0248(23)2724 管理建築士 一級建築士登録 第217145号 斎藤正明

承認	CHECK	DRAW	DATE	NO
			R08.10	S-113

A1=100% A3=50%縮小

KESコネクター伏図表記凡例



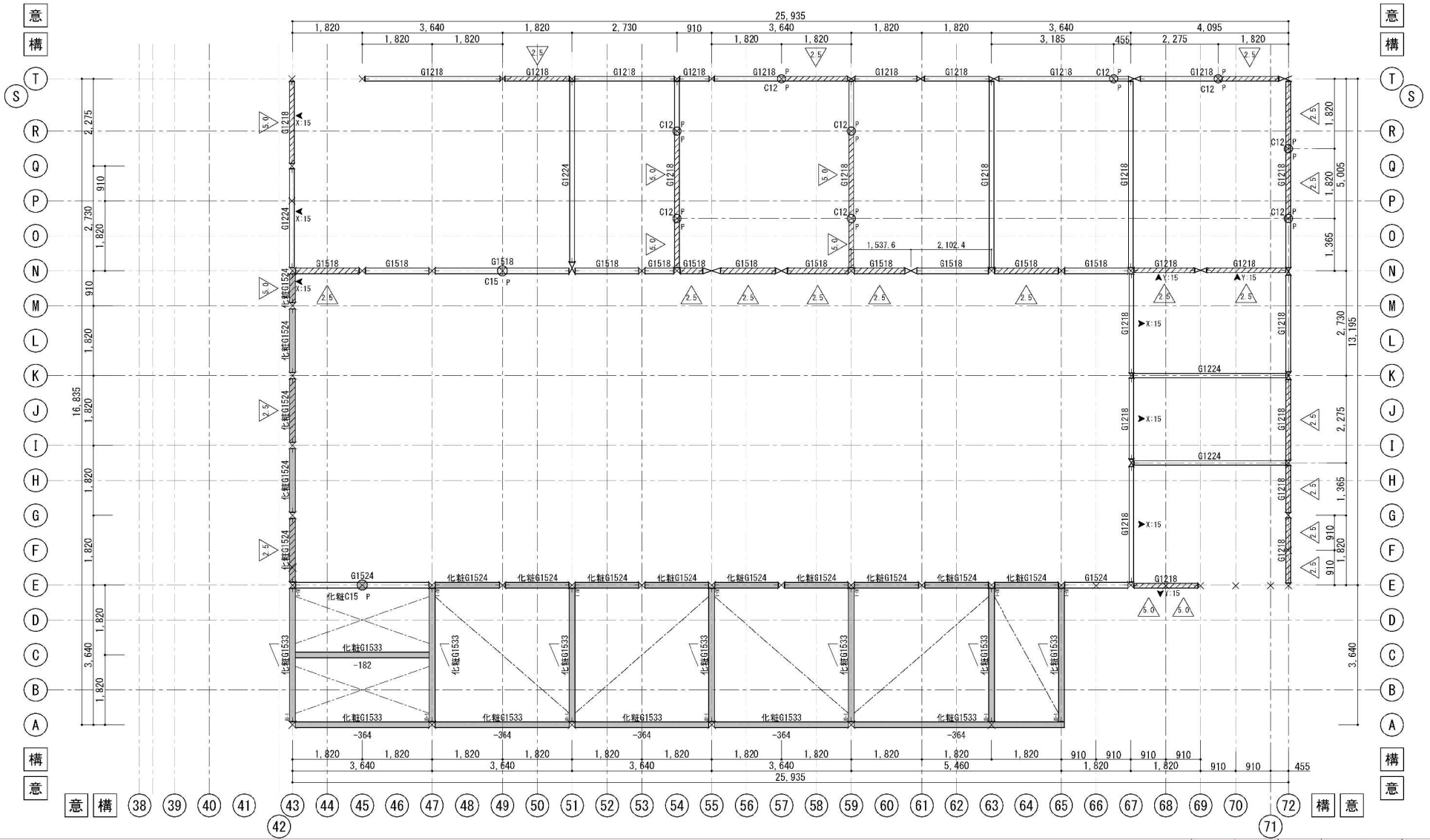
耐力壁凡例 ▨ は耐力壁位置を示す

凡例	壁倍率	面材の仕様	釘の仕様	納まり参考図
5.0	5.0倍	構造用合板 9.0mm 又は 構造用パネル(OSB) 9.0mm 両面張り	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@100mm以下	長辺用合板 9mm 又は OSB 9mm 横張用合板 9mm 又は OSB 9mm 120
2.5	2.5倍	構造用合板 9.0mm 又は 構造用パネル(OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@200mm以下	長辺用合板 9mm 又は OSB 9mm 120

※すべての仕様は床勝・壁勝どちらも対応可とする。

1階高:2780
床根太206は38×140@455(SPF)
――― は水平ブレースM12を示す。(端部は4-12)
／ は登り梁を示す。
▭ は化粧材を示す。
小屋束の樹種は唐松集成材E95
指定なき梁の樹種は唐松集成材E95
X:＊、Y:＊は各方向の部材の芯ズレ量を示す。
➤は部材の芯ズレ方向を示す。

壁合板910×1820×9mm



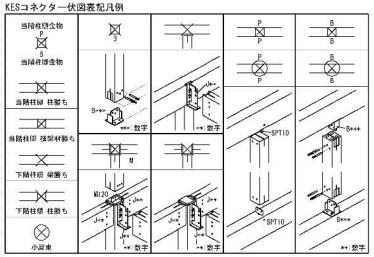
工事名	まるごと西郷館(飲食)	工事設計図・	図面名称	小屋伏図	縮尺	A1=1:50 A3=1:100

株式会社 斎藤建築設計事務所・・ 一級建築士事務所登録 第13(101)0002号
白河市愛宕町25番地 TEL 0248(23)2724 管理建築士 一級建築士登録 第217145号 斎藤正明

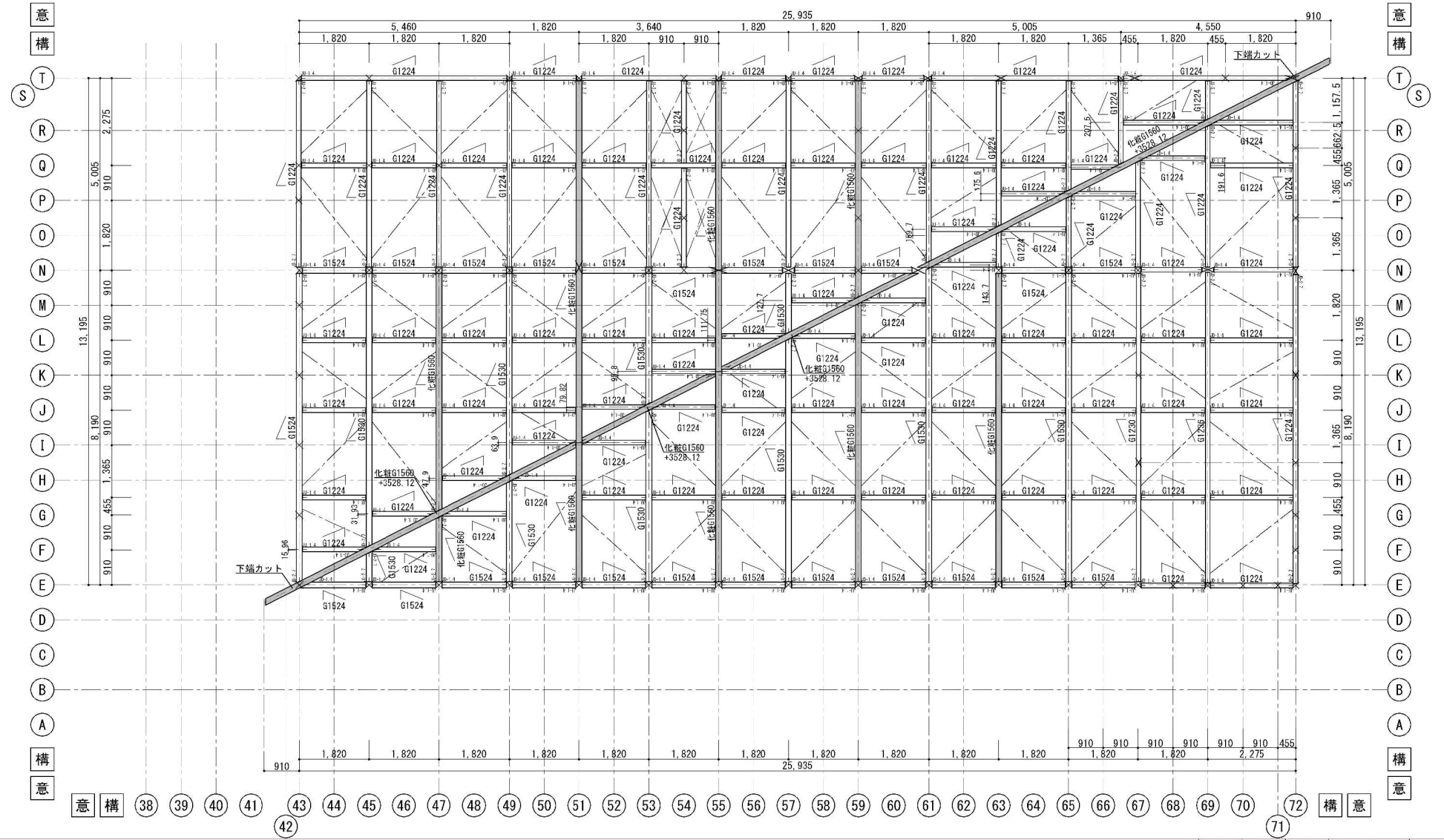
承認	CHECK	DRAW	DATE	NO
			R08.10	S-114

A1=100% A3=50%縮小

KESコネクター伏図表記凡例



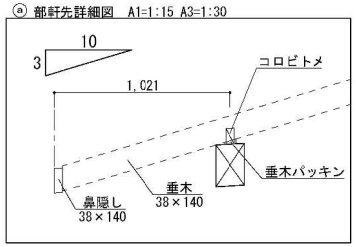
―・― は水平ブレースM12を示す。(端部は4-12)
▭ は化粧材を示す。
／ は登り梁を示す。
指定なき梁の樹種は唐松集成材E95

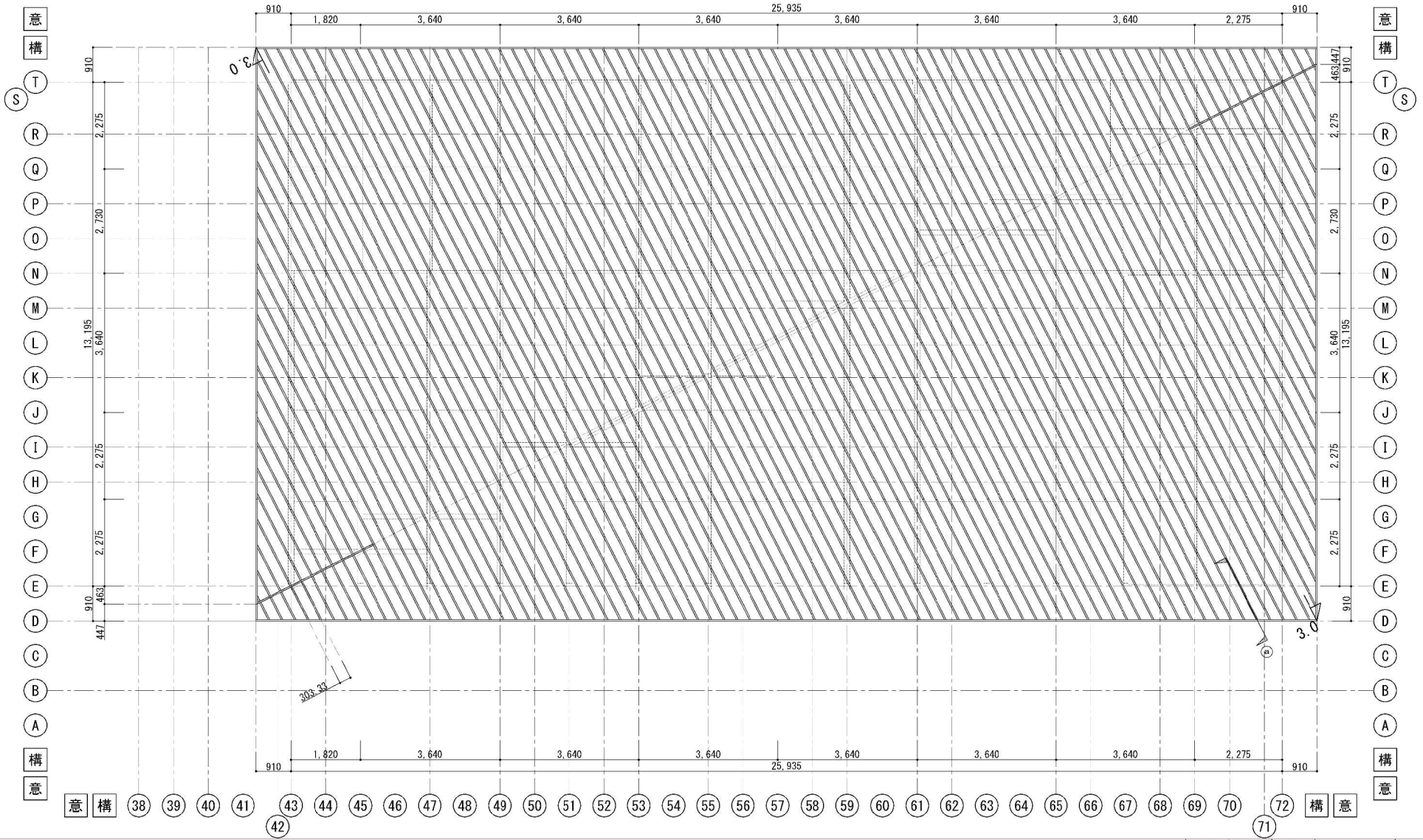

意 構 T S R Q P O N M L K J I H G F E D C B A 構 意
25,935
5,460 1,820 3,640 1,820 1,820 1,820 5,005 4,550 910
1,820 1,820 1,820 1,820 910 910 1,820 1,820 1,820 1,820 1,365 455 1,820 455 1,820
13,195
5,005 910 1,820 910 910 910 910 910 1,365 455 910
8,190
910 910 910 910 910

垂木は206(38×140)(SPF)
垂木の間隔は@303とする。
1寸～6寸勾配は垂木パッキン有あり。

野地合板910×1820×12mm
CN50@150以下　川型

ⓐ 部軒先詳細図　A1=1:15 A3=1:30





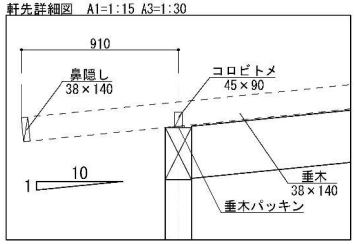
工事名	まるごと西郷館(飲食)	工事設計図・	図面名称	垂木伏図(1)	株式会社 斎藤建築設計事務所・・ 一級建築士事務所登録 第13（101）0002号	承認	CHECK	DRAW	DATE	NO
			縮尺	A1=1:50 A3=1:100	白河市愛宕町２５番地　TEL 0248（23）2724 管理建築士　一級建築士登録　第217145号　斎藤正明				R08.10	S-１１６

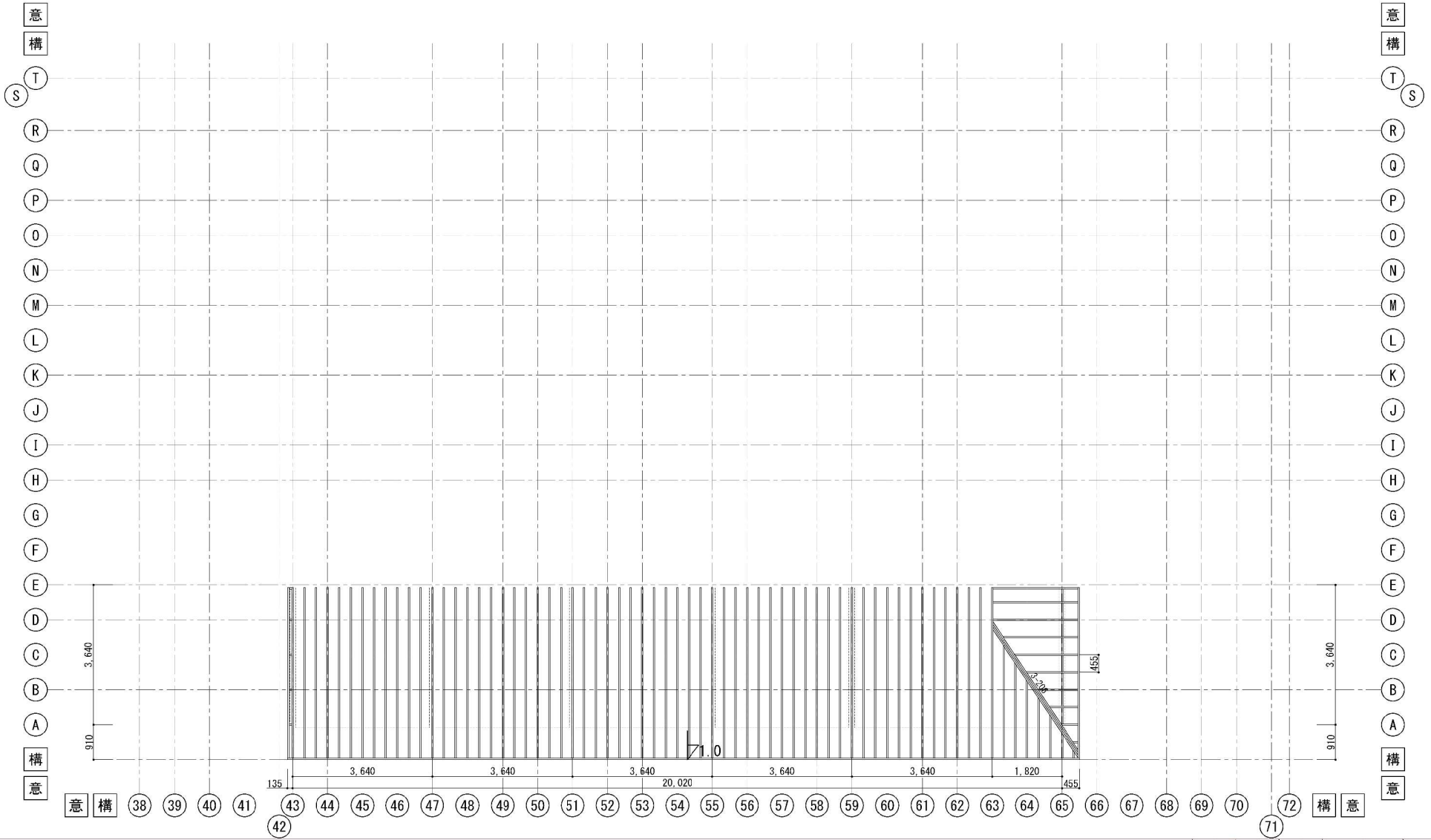
A1=100%　A3=50%縮小

垂木は206(38×140)(SPF)
垂木の間隔は@303とする。
ケラバ垂木は206(38×140)@455(SPF)
1寸～6寸勾配は垂木パッキン有あり。

野地合板910×1820×12mm
CN50@150以下　川型

軒先詳細図　A1=1:15 A3=1:30



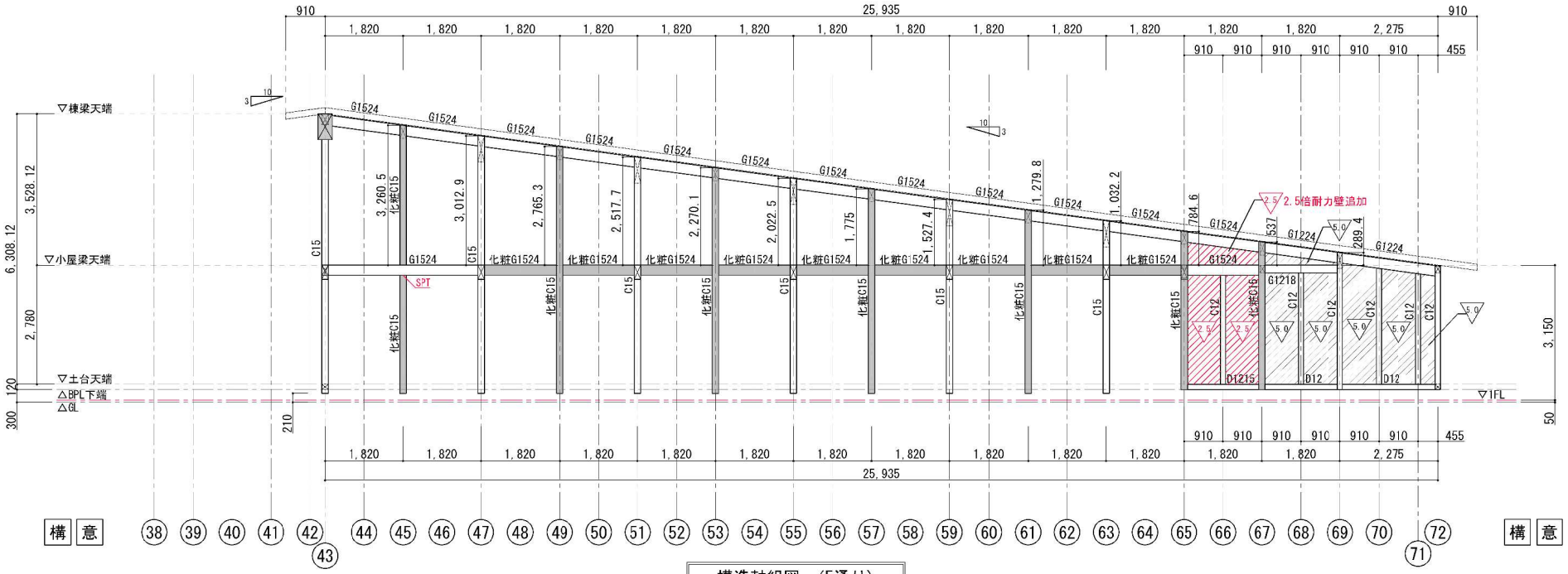


工事名	まるごと西郷館(飲食)	工事設計図・	
図面名称	垂木伏図(2)		
縮尺	A1=1:50 A3=1:100		

株式会社 斎藤建築設計事務所・・ 一級建築士事務所登録 第13（101）0002号
白河市愛宕町25番地　TEL 0248（23）2724 管理建築士　一級建築士登録　第217145号　斎藤正明

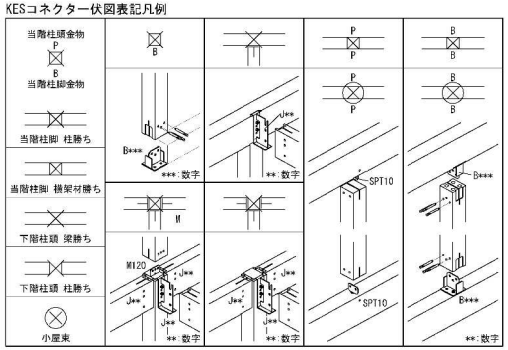
承認	CHECK	DRAW	DATE	NO
			R08.10	S-117

A1=100%　A3=50%縮小



構造軸組図　(E通り)

KESコネクター伏図表記凡例



耐力壁凡例　は耐力壁位置を示す

5.0	5.0倍	構造用合板 9.0mm 又は 構造用パネル(OSB) 9.0mm 両面張り	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@160mm以下
2.5	2.5倍	構造用合板 9.0mm 又は 構造用パネル(OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@260mm以下

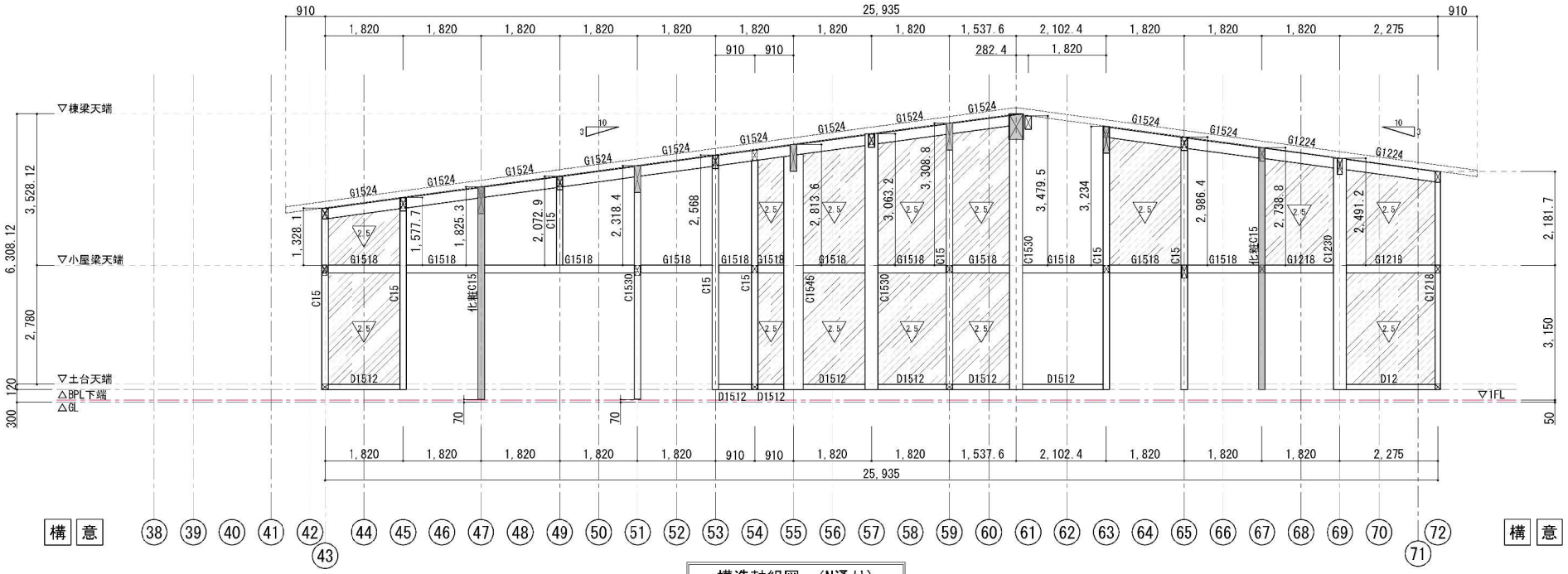
※すべての仕様は床勝・壁勝どちらも対応可とする。

SB-W使用	壁合板910×1820×9mm
基礎パッキンなし	野地合板910×1820×12mm
	CN50@150以下　川型

指定なきBPL下端レベルはGL+300
指定なき土台の樹種は桧集成材
指定なき柱の樹種は唐松集成材E95
小屋束の樹種は唐松集成材E95
指定なき梁の樹種は唐松集成材E95
化粧V09の樹種は杉製材
床根太は206(38×140)@455(SPF)
　は化粧材を示す。
垂木は206(38×140)@303(SPF)
隅木は120×240(唐松集成材E95)
ケラバ垂木206は軒先から@455
1寸～6寸勾配は垂木パッキン有り

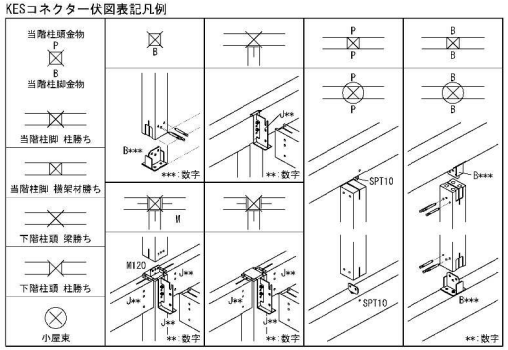
工事名	まるごと西郷館(飲食)　工事設計図・	図面名称	軸組図(1)	株式会社 斎藤建築設計事務所・・ 一級建築士事務所登録 第13(101)0002号	承認	CHECK	DRAW	DATE	NO
		縮尺	A1=1:50 A3=1:100	白河市愛宕町25番地　TEL 0248(23)2724 管理建築士　一級建築士登録　第217145号　斎藤正明				R08.10	S-118

A1=100%　A3=50%縮小



構造軸組図　(N通り)

KESコネクター伏図表記凡例



耐力壁凡例　▨ は耐力壁位置を示す

5.0	5.0倍	構造用合板 9.0mm 又は 構造用パネル(OSB) 9.0mm 両面張り	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@160mm以下
2.5	2.5倍	構造用合板 9.0mm 又は 構造用パネル(OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@260mm以下

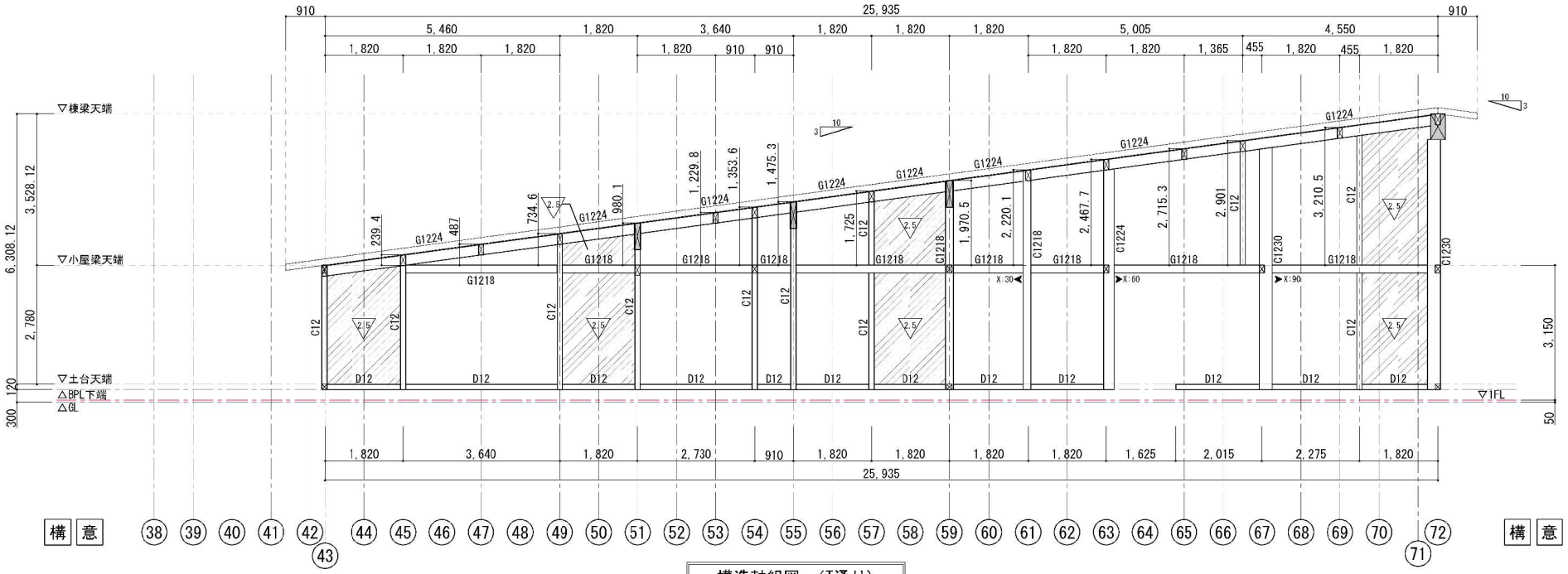
※すべての仕様は床勝・壁勝どちらも対応可とする。

SB-W使用	壁合板910×1820×9mm
基礎パッキンなし	野地合板910×1820×12mm CN50@150以下　川型

指定なきBPL下端レベルはGL+300
指定なき土台の樹種は桧集成材
指定なき柱の樹種は唐松集成材E95
小屋束の樹種は唐松集成材E95
指定なき梁の樹種は唐松集成材E95
化粧V09の樹種は杉製材
床根太は206(38×140)@455(SPF)
▨ は化粧材を示す。
垂木は206(38×140)@303(SPF)
隅木は120×240(唐松集成材E95)
ケラバ垂木206は軒先から@455
1寸～6寸勾配は垂木パッキン有り

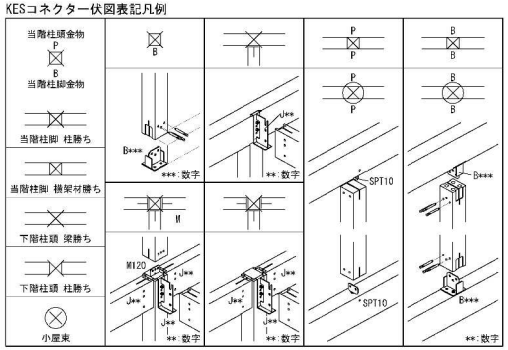
工事名	まるごと西郷館(飲食)	工事設計図・	図面名称	軸組図(2)	株式会社 斎藤建築設計事務所・・ 一級建築士事務所登録 第13（101）0002号	承認	CHECK	DRAW	DATE	NO
			縮尺	A1=1:50 A3=1:100	白河市愛宕町25番地 TEL 0248（23）2724 管理建築士 一級建築士登録 第217145号 斎藤正明				R08.10	S-119

A1=100%　A3=50%縮小



構造軸組図 （T通り）

KESコネクター伏図表記凡例



耐力壁凡例 ▨ は耐力壁位置を示す

5.0	5.0倍	構造用合板 9.0mm 又は 構造用パネル(OSB) 9.0mm 両面張り	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@160mm以下
2.5	2.5倍	構造用合板 9.0mm 又は 構造用パネル(OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@260mm以下

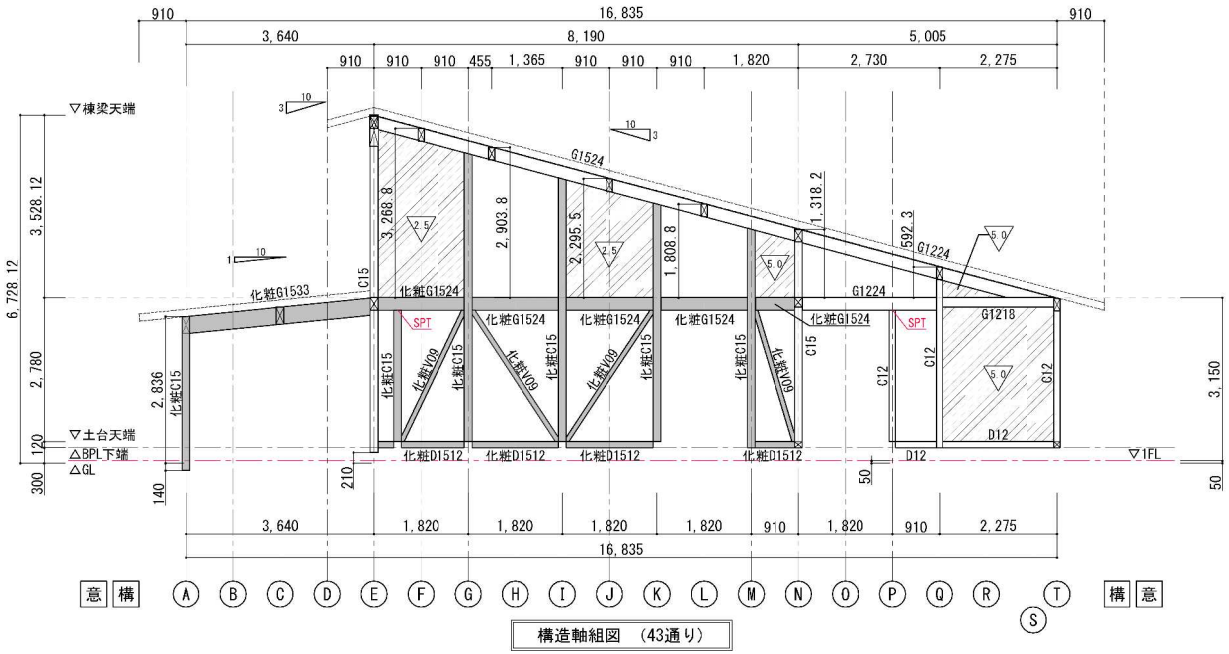
※すべての仕様は床勝・壁勝どちらも対応可とする。

SB-W使用	壁合板910×1820×9mm
基礎パッキンなし	野地合板910×1820×12mm CN50@150以下 川型

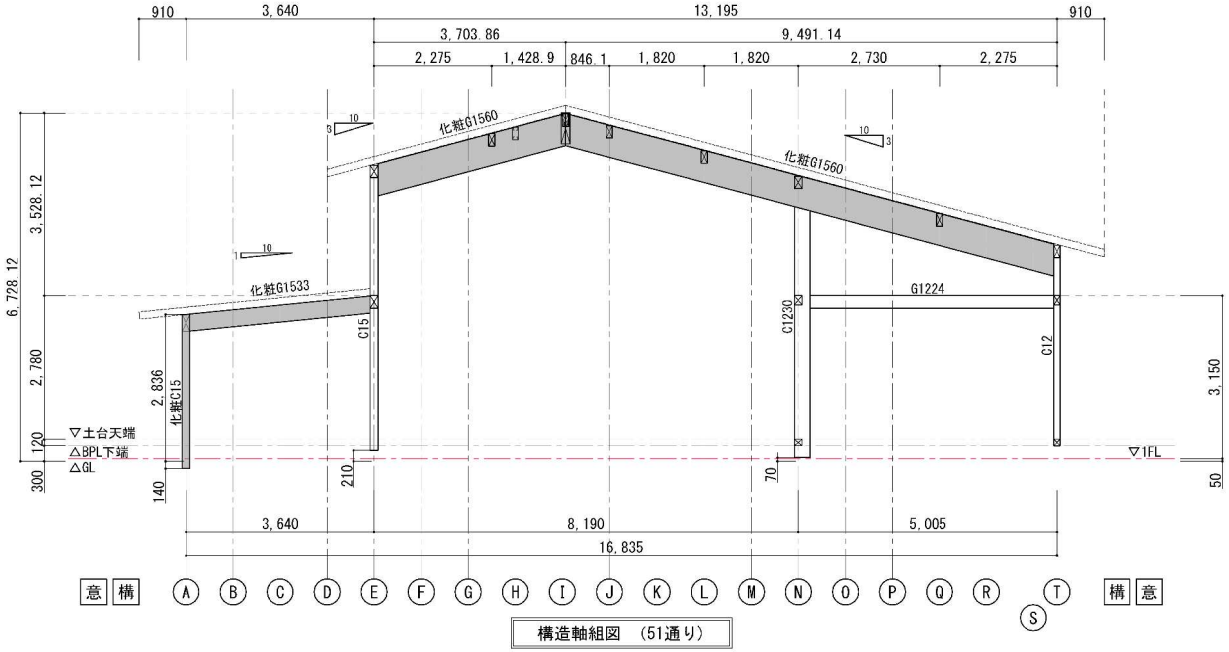
指定なきBPL下端レベルはGL+300
指定なき土台の樹種は桧集成材
指定なき柱の樹種は唐松集成材E95
小屋束の樹種は唐松集成材E95
指定なき梁の樹種は唐松集成材E95
化粧V09の樹種は杉製材
床根太は206(38×140)@455(SPF)
▨ は化粧材を示す。
垂木は206(38×140)@303(SPF)
隅木は120×240(唐松集成材E95)
ケラバ垂木206は軒先から@455
1寸～6寸勾配は垂木パッキン有り

工事名	まるごと西郷館(飲食)	工事設計図・	図面名称	軸組図(3)	株式会社 斎藤建築設計事務所・・ 一級建築士事務所登録 第13（101）0002号	承認	CHECK	DRAW	DATE	NO
			縮尺	A1=1:50 A3=1:100	白河市愛宕町25番地 TEL 0248（23）2724 管理建築士 一級建築士登録 第217145号 斎藤正明				R08.10	S-120

A1=100% A3=50%縮小

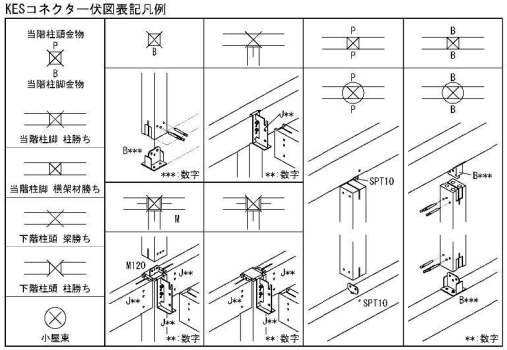


構造軸組図 (43通り)



構造軸組図 (51通り)

KESコネクター伏図表記凡例



耐力壁凡例 ▨ は耐力壁位置を示す

5.0	5.0倍	構造用合板 9.0mm 又は 構造用パネル(OSB) 9.0mm 両面張り	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@100mm以下	構造用合板 9mm 又は OSB 9mm / 横架材合板 9mm 又は OSB 9mm
2.5	2.5倍	構造用合板 9.0mm 又は 構造用パネル(OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@200mm以下	構造用合板 9mm 又は OSB 9mm

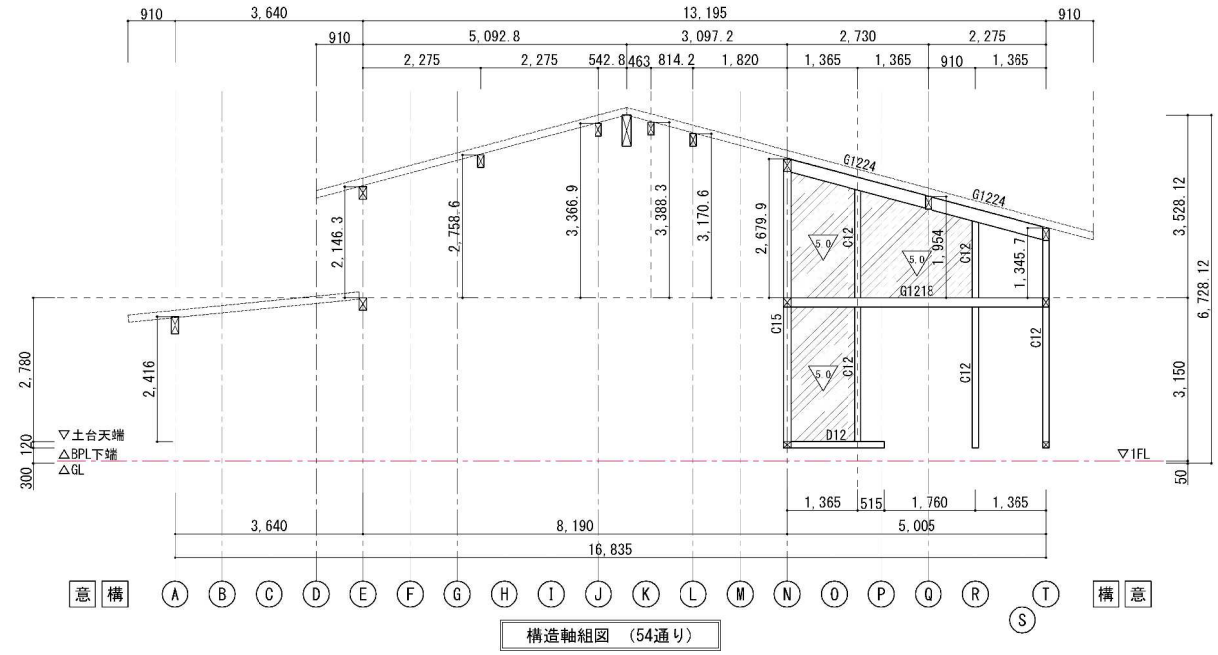
※すべての仕様は床勝・壁勝どちらも対応可とする。

指定なきBPL下端レベルはGL+300
指定なき土台の樹種は桧集成材
指定なき柱の樹種は唐松集成材E95
小屋束の樹種は唐松集成材E95
指定なき梁の樹種は唐松集成材E95
化粧V09の樹種は杉製材
床根太は206(38×140)@455(SPF)
▨ は化粧材を示す。
垂木は206(38×140)@303(SPF)
隅木は120×240(唐松集成材E95)
ケラバ垂木206は軒先から@455
1寸～6寸勾配は垂木パッキン有り

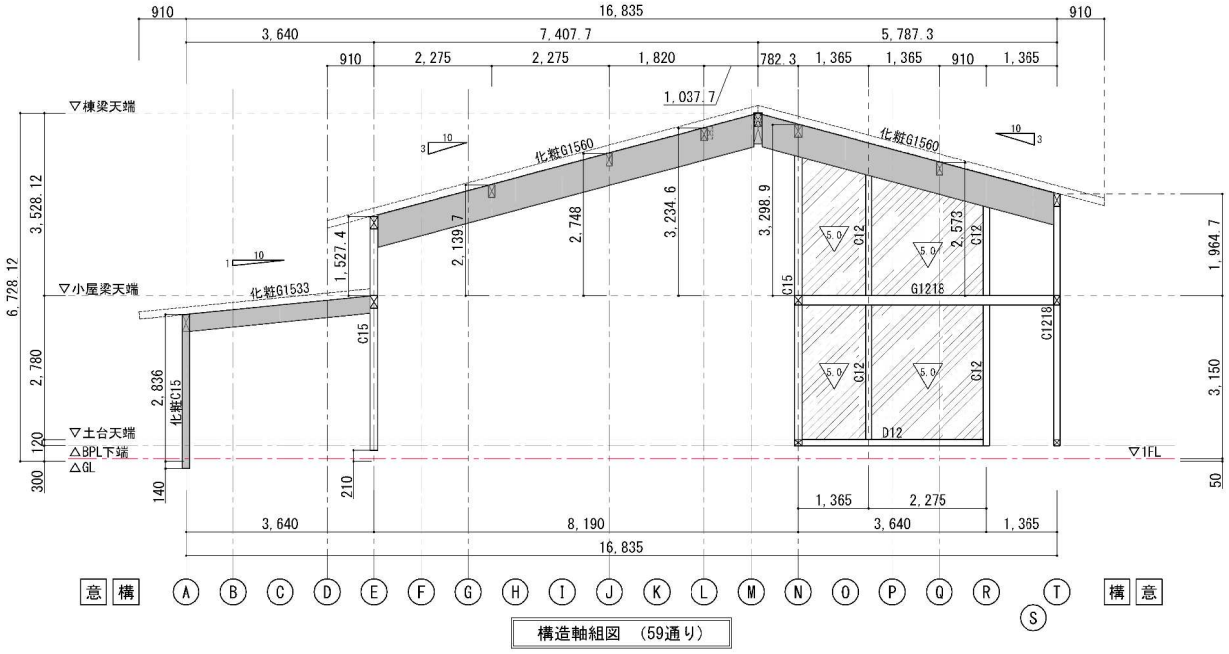
SB-W使用	壁合板910×1820×9mm
基礎パッキンなし	野地合板910×1820×12mm CN50@150以下 川型

工事名	まるごと西郷館(飲食)	工事設計図・	図面名称	軸組図(4)	株式会社 斎藤建築設計事務所・・ 一級建築士事務所登録 第13(101)0002号 白河市愛宕町25番地 TEL 0248(23)2724 管理建築士 一級建築士登録 第217145号 斎藤正明	承認	CHECK	DRAW	DATE R08.10	NO S-121
			縮尺	A1=1:50 A3=1:100						

A1=100% A3=50%縮小

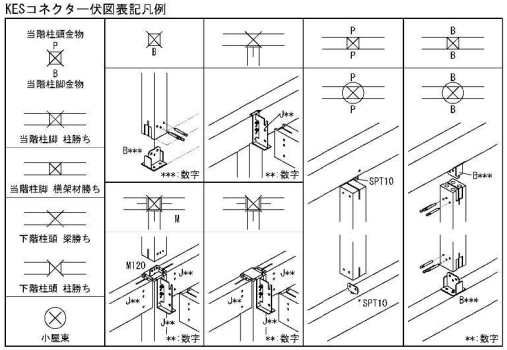


構造軸組図　(54通り)



構造軸組図　(59通り)

KESコネクター伏図表記凡例



耐力壁凡例　▨は耐力壁位置を示す

5.0	5.0倍	構造用合板 9.0mm 又は 構造用パネル(OSB) 9.0mm 両面張り	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@100mm以下	構造用合板 9mm 又は OSB 9mm / 横架材 9mm 又は OSB 9mm / 120
2.5	2.5倍	構造用合板 9.0mm 又は 構造用パネル(OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@200mm以下	構造用合板 9mm 又は OSB 9mm / 120

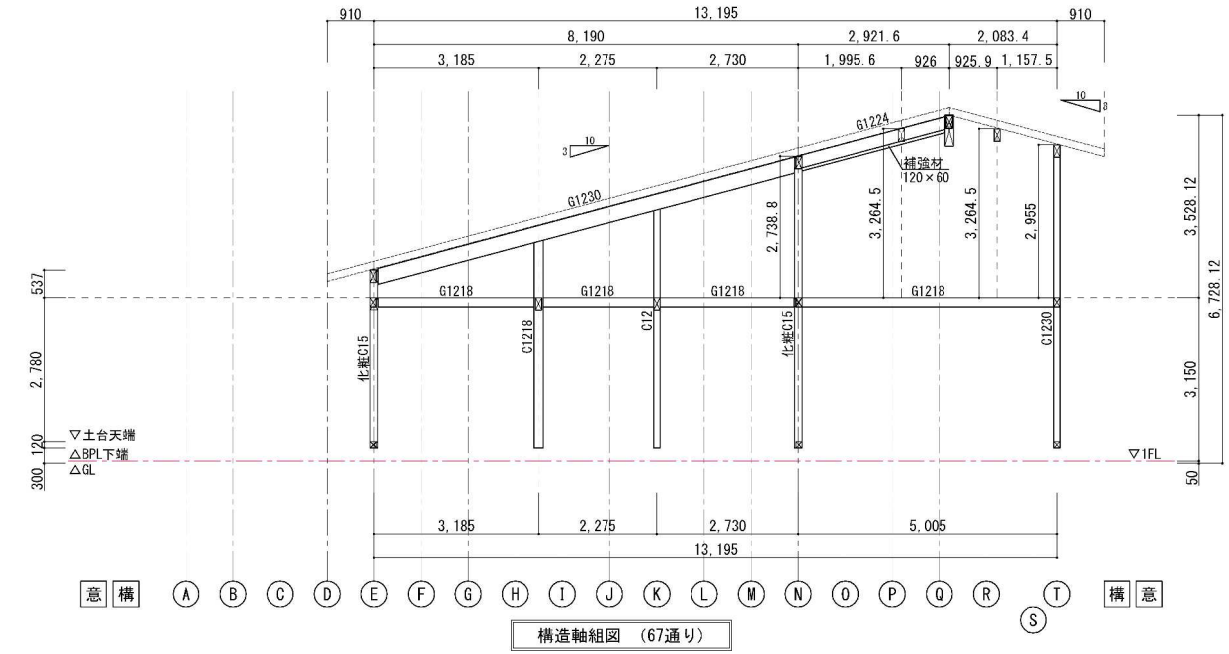
※すべての仕様は床勝・壁勝どちらも対応可とする。

指定なきBPL下端レベルはGL+300
指定なき土台の樹種は桧集成材
指定なき柱の樹種は唐松集成材E95
小屋束の樹種は唐松集成材E95
指定なき梁の樹種は唐松集成材E95
化粧V09の樹種は杉製材
床根太は206(38×140)@455(SPF)
■は化粧材を示す。
垂木は206(38×140)@303(SPF)
隅木は120×240(唐松集成材E95)
ケラバ垂木206は軒先から@455
1寸～6寸勾配は垂木パッキン有り

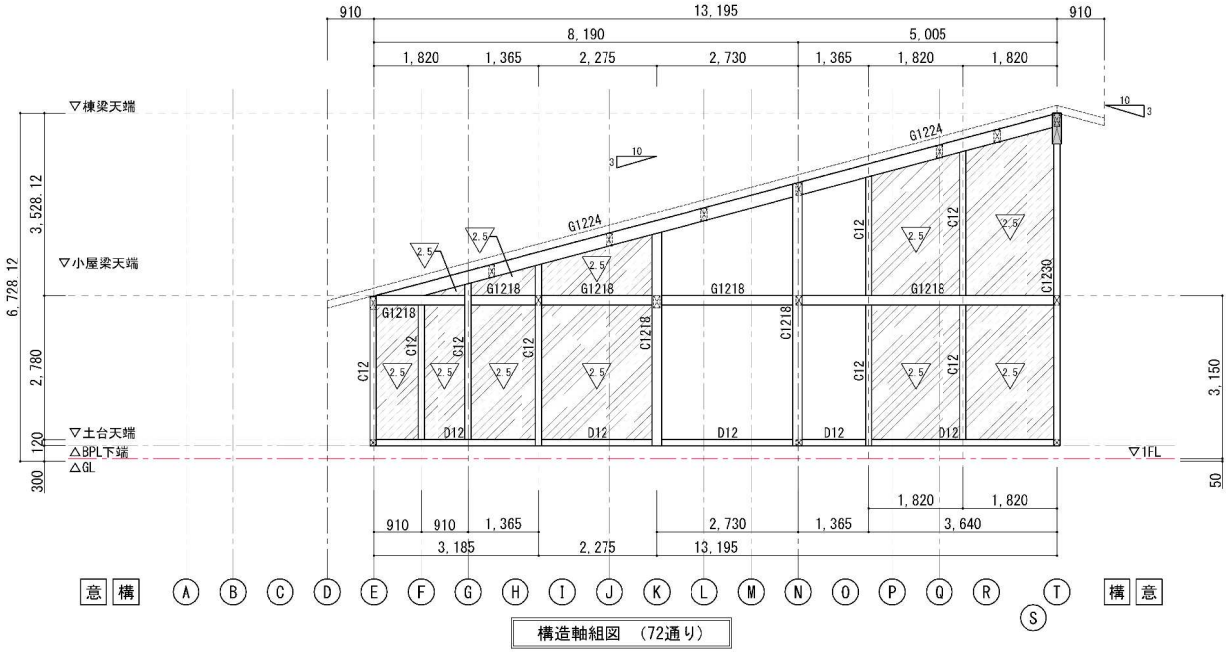
SB-W使用	壁合板910×1820×9mm
基礎パッキンなし	野地合板910×1820×12mm CN50@150以下　川型

工事名	まるごと西郷館(飲食)	工事設計図・	図面名称	軸組図(5)	株式会社 斎藤建築設計事務所・・ 一級建築士事務所登録 第13（101）0002号 白河市愛宕町25番地　TEL 0248（23）2724 管理建築士　一級建築士登録　第217145号　斎藤正明	承認	CHECK	DRAW	DATE	NO
			縮尺	A1=1:50 A3=1:100					R08.10	S-122

A1=100%　A3=50%縮小

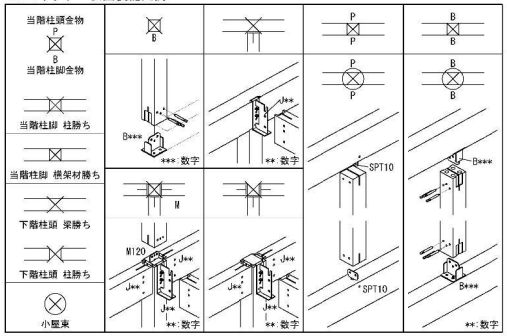


構造軸組図　(67通り)



構造軸組図　(72通り)

KESコネクター伏図表記凡例



耐力壁凡例　▨ は耐力壁位置を示す

5.0	5.0倍	構造用合板 9.0mm 又は 構造用パネル(OSB) 9.0mm 両面張り	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@100mm以下	構造用合板 9mm 又は OSB 9mm 横架材合板 9mm 又は OSB 9mm
2.5	2.5倍	構造用合板 9.0mm 又は 構造用パネル(OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@200mm以下	構造用合板 9mm 又は OSB 9mm

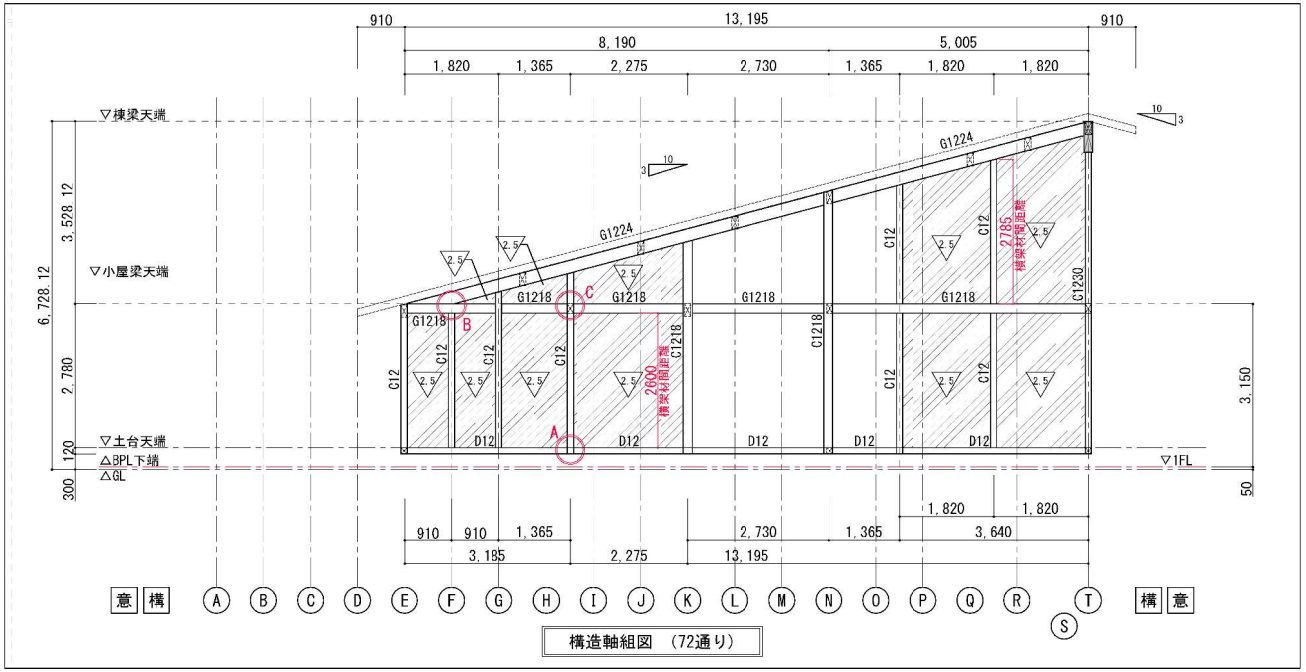
※すべての仕様は床勝・壁勝どちらも対応可とする。

指定なきBPL下端レベルはGL+300
指定なき土台の樹種は桧集成材
指定なき柱の樹種は唐松集成材E95
小屋束の樹種は唐松集成材E95
指定なき梁の樹種は唐松集成材E95
化粧V09の樹種は杉製材
床根太は206(38×140)@455(SPF)
■ は化粧材を示す。
垂木は206(38×140)@303(SPF)
隅木は120×240(唐松集成材E95)
ケラバ垂木206は軒先から@455
1寸～6寸勾配は垂木パッキン有り

SB-W使用	壁合板910×1820×9mm
基礎パッキンなし	野地合板910×1820×12mm CN50@150以下　川型

工事名	まるごと西郷館(飲食)	工事設計図・	図面名称	軸組図(6)	株式会社 斎藤建築設計事務所・・ 一級建築士事務所登録 第13（101）0002号 白河市愛宕町25番地　TEL 0248（23）2724 管理建築士　一級建築士登録　第217145号　斎藤正明	承認	CHECK	DRAW	DATE	NO
			縮尺	A1=1:50 A3=1:100					R08.10	S-123

A1=100%　A3=50%縮小



構造軸組図 (72通り)

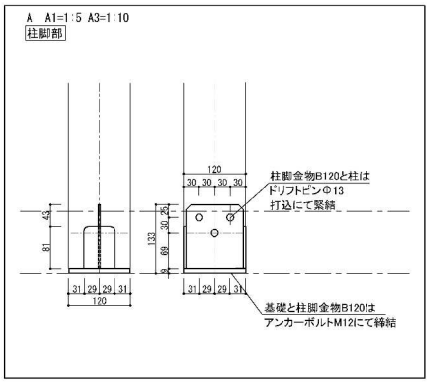
屋根葺きの仕様

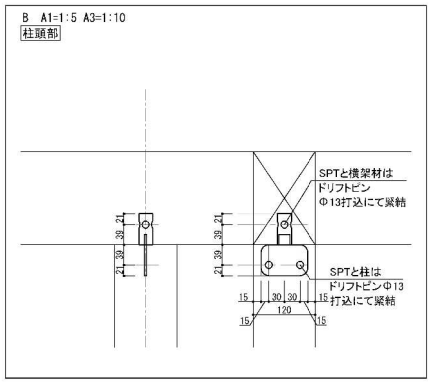
カラ-SGL鋼板0.45横葺(元旦SPルーフ800同等)
改質アスファルトルーフィング t1.0
通気層
高性能GW16K t200
防湿気密シート
野地板：構造用合板 t12
構造垂木：45×120@455
屋根葺き材の釘：ステンレスドリルビス 20本/㎡以上

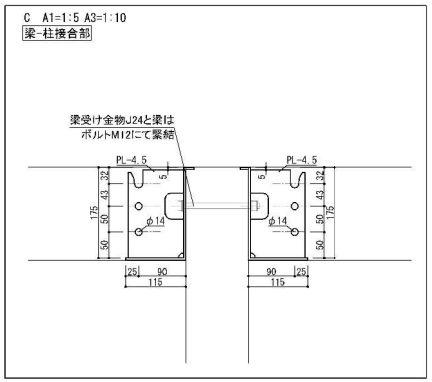
柱の有効細長比について

[柱120×120]　　λ=Lk/i
i=√(I/A)=3.464cm
1階λ：260cm/3.464cm = 75.058 <150　よってOK

[柱120×120]　　λ=Lk/i
i=√(I/A)=3.464cm
2階λ：278.5cm/3.464cm = 80.398 <150　よってOK





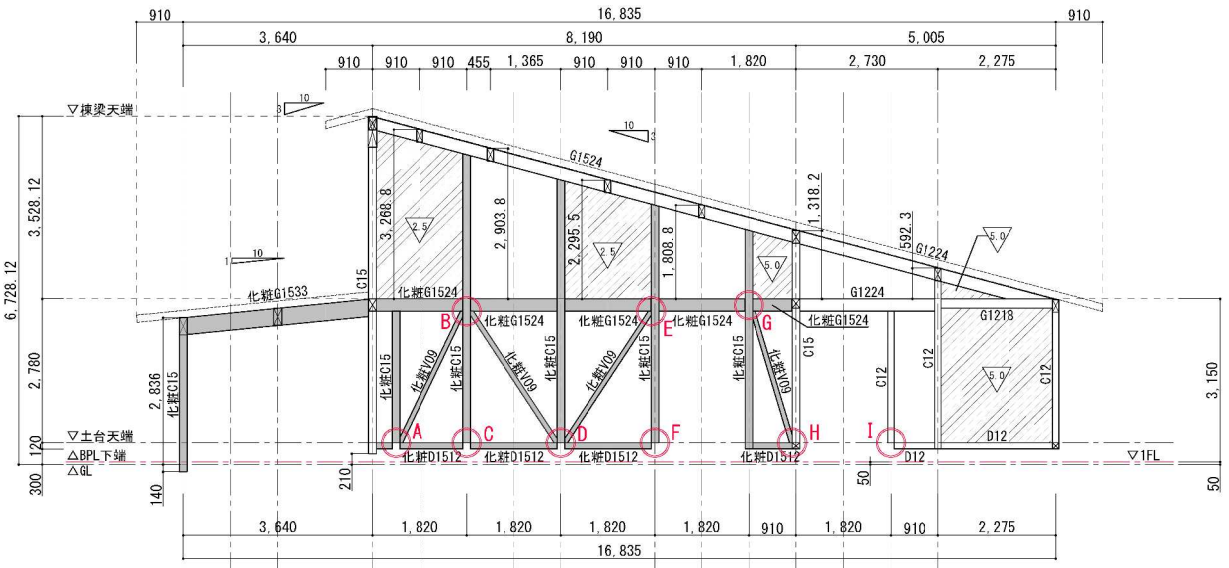


工事名	まるごと西郷館(飲食)	工事設計図・	図面名称	接合詳細図(1)
			縮尺	A1=1:50 A3=1:100

株式会社 斎藤建築設計事務所・・ 一級建築士事務所登録 第13 (101) 0002号
白河市愛宕町25番地　TEL 0248 (23) 2724 管理建築士　一級建築士登録　第217145号　斎藤正明

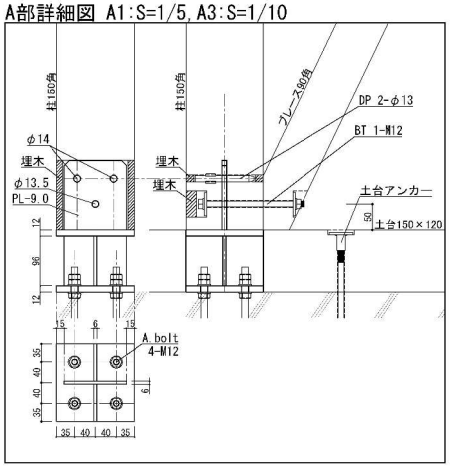
承認	CHECK	DRAW	DATE	NO
			R08.10	S-124

A1=100%　A3=50%縮小

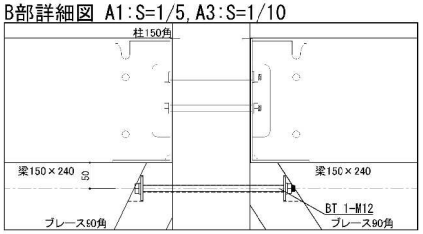


構造軸組図 (43通り)

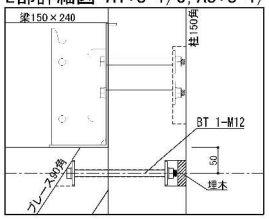
A部詳細図 A1:S=1/5, A3:S=1/10



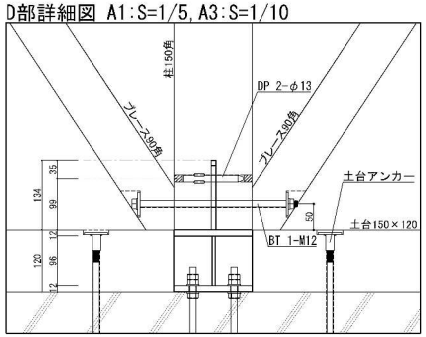
B部詳細図 A1:S=1/5, A3:S=1/10



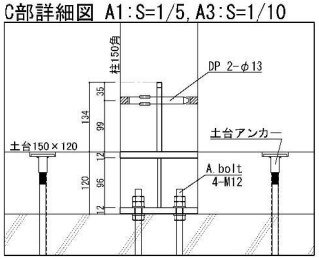
E部詳細図 A1:S=1/5, A3:S=1/10



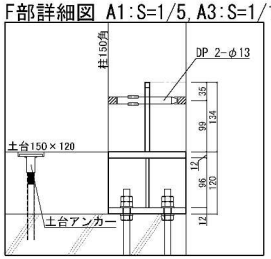
D部詳細図 A1:S=1/5, A3:S=1/10



C部詳細図 A1:S=1/5, A3:S=1/10

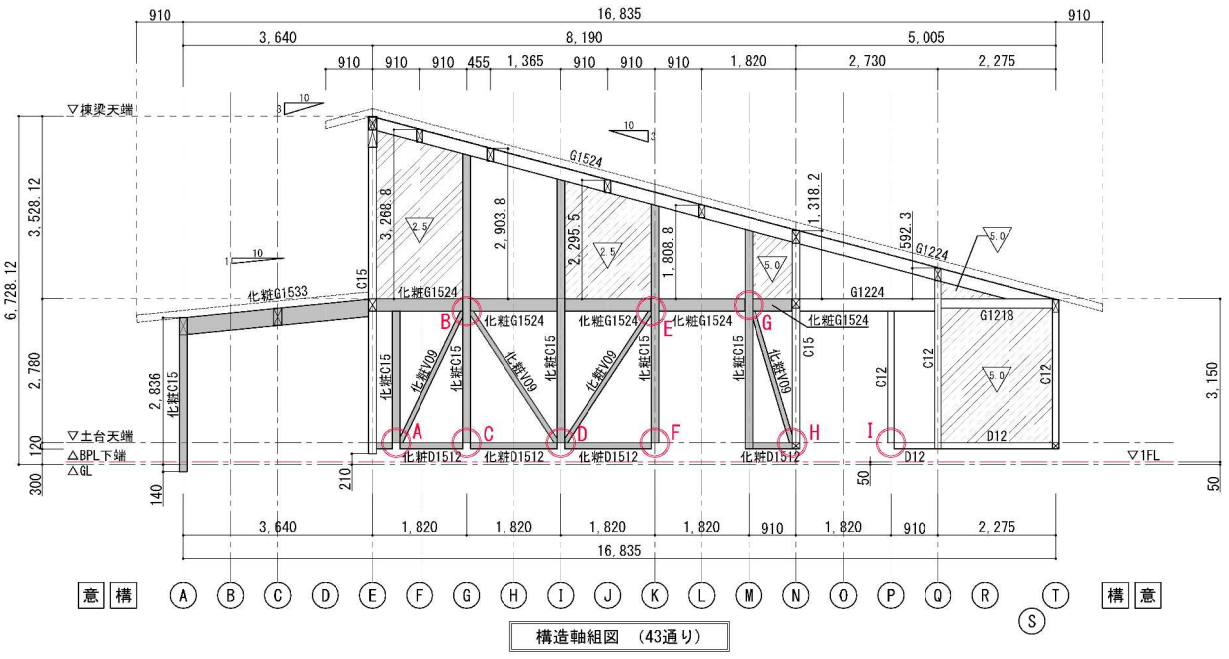


F部詳細図 A1:S=1/5, A3:S=1/10



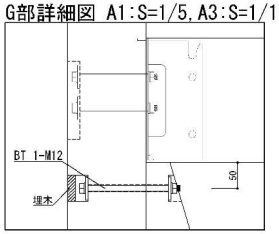
工事名	まるごと西郷館(飲食)	工事設計図・	図面名称	接合詳細図(2)	株式会社 斎藤建築設計事務所・・ 一級建築士事務所登録 第13 (101) 0002号	承認	CHECK	DRAW	DATE	NO
			縮尺	A1=1:50 A3=1:100	白河市愛宕町25番地 TEL 0248 (23) 2724 管理建築士 一級建築士登録 第217145号 斎藤正明				R08.10	S-125

A1=100% A3=50%縮小

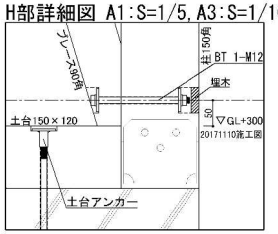


構造軸組図 （43通り）

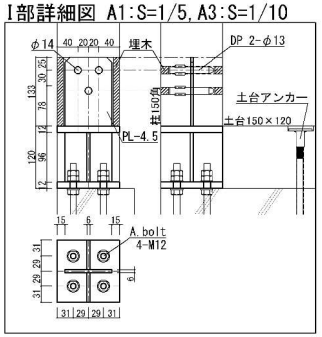
G部詳細図 A1:S=1/5, A3:S=1/10



H部詳細図 A1:S=1/5, A3:S=1/10

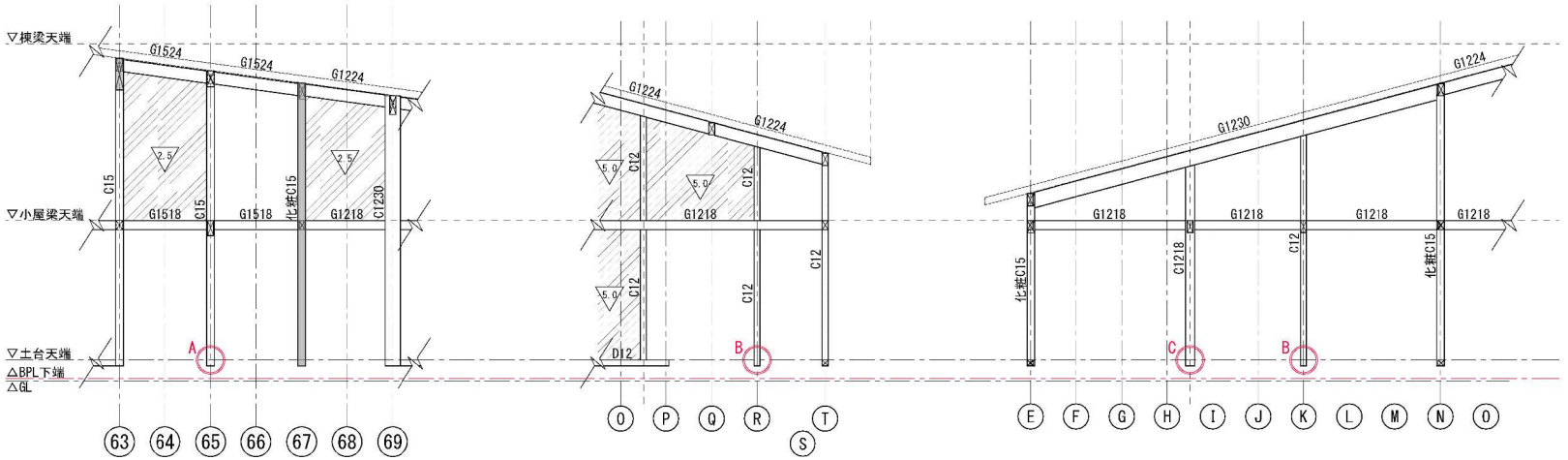


I部詳細図 A1:S=1/5, A3:S=1/10



工事名	まるごと西郷館(飲食)	工事設計図・	図面名称	接合詳細図(3)	株式会社 斎藤建築設計事務所・・ 一級建築士事務所登録 第13（101）0002号 白河市愛宕町２５番地 TEL 0248（23）2724 管理建築士 一級建築士登録 第217145号 斎藤正明	承認	CHECK	DRAW	DATE R08.10	NO S-１２６
			縮尺	A1=1:50 A3=1:100						

A1=100% A3=50%縮小

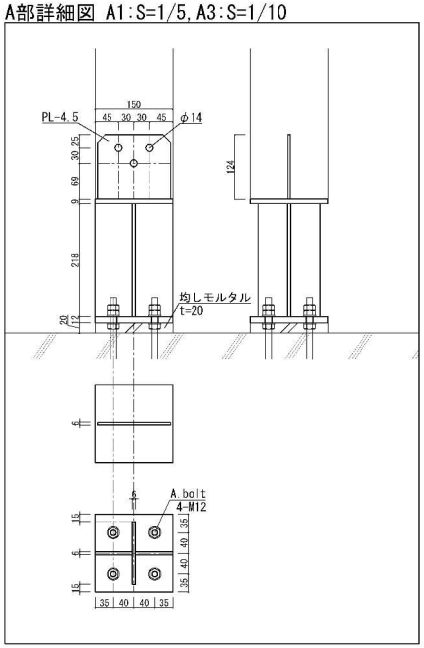


構造軸組図　(N通り)

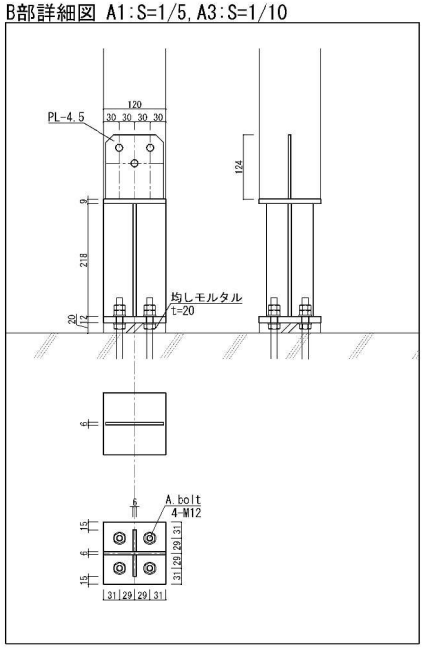
構造軸組図　(54通り)

構造軸組図　(67通り)

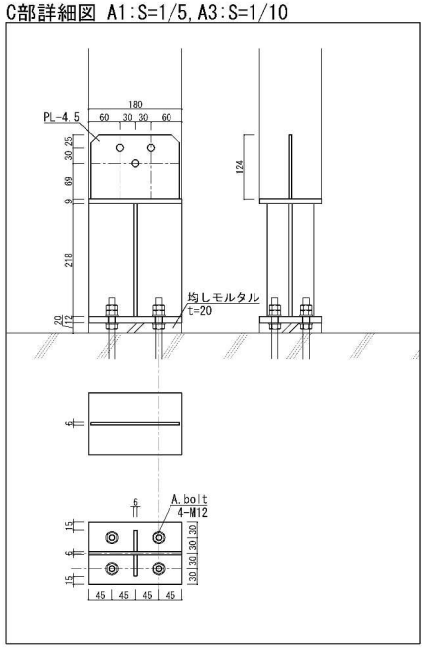
A部詳細図 A1:S=1/5, A3:S=1/10



B部詳細図 A1:S=1/5, A3:S=1/10

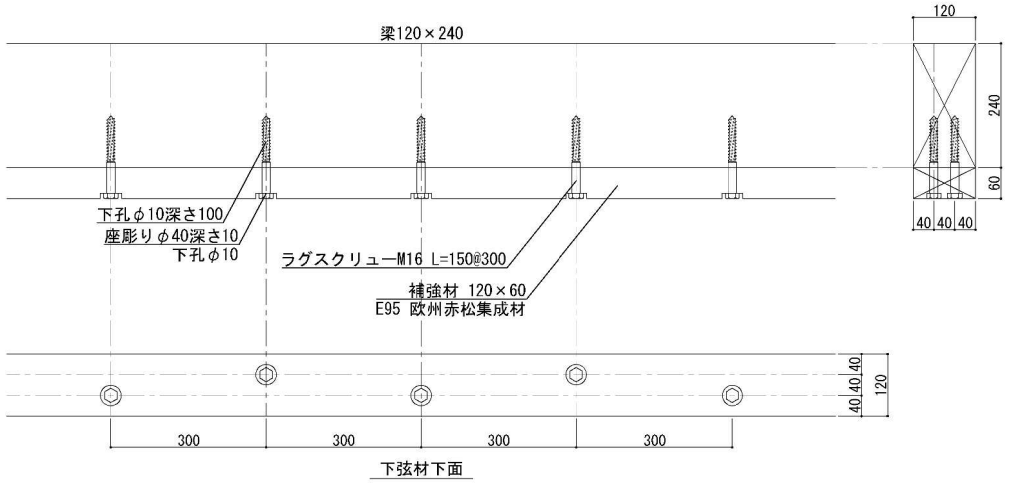


C部詳細図 A1:S=1/5, A3:S=1/10

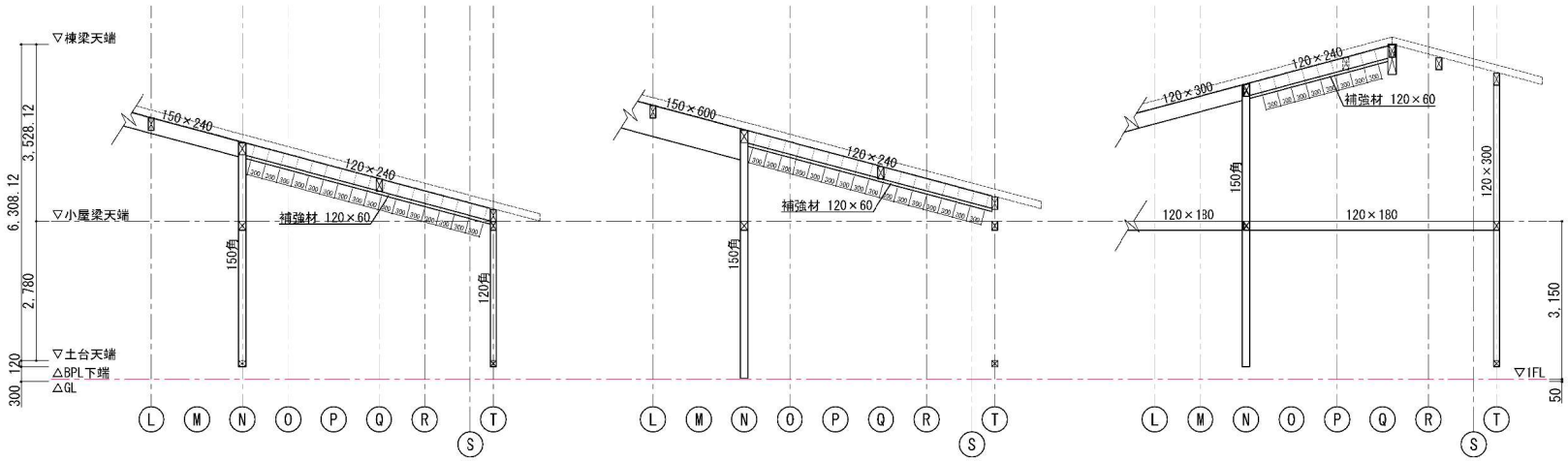


工事名	まるごと西郷館(飲食)　工事設計図・	図面名称	嵩上げ金物詳細図	株式会社 斎藤建築設計事務所・・ 一級建築士事務所登録 第13（101）0002号	承認	CHECK	DRAW	DATE	NO
		縮尺	A1=1:50 A3=1:100	白河市愛宕町２５番地　TEL 0248（23）2724 管理建築士　一級建築士登録　第217145号　斎藤正明				R08.10	S-１２７

A1=100%　A3=50%縮小



補強材詳細図 A1:S=1/5 A3:S1/10



構造軸組図 (45通り)　構造軸組図 (47通り)　構造軸組図 (67通り)

工事名	まるごと西郷館(飲食)	工事設計図・	図面名称	補強材詳細図	株式会社 斎藤建築設計事務所・・ 一級建築士事務所登録 第13(101)0002号	承認	CHECK	DRAW	DATE	NO
			縮尺	A1=1:50 A3=1:100	白河市愛宕町25番地 TEL 0248(23)2724 管理建築士 一級建築士登録 第217145号 斎藤正明				R08.10	S-128

A1=100% A3=50%縮小